

新

目次

1. 平成30年度入学生 教育課程(カリキュラムマップ)	4
2. 平成30年度入学生 カリキュラムツリー	5
3. 1年生 年間予定表	6
4. 1年生 シラバス	8

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	8	病理学	26
英語 I	9	微生物学	27
歴史と文化	10	薬理学	29
手話	11	栄養学	30
大学生活論	12	衛生学・公衆衛生学	31
現代の社会	13	口腔衛生学	32
コミュニケーション演習	14	歯科衛生士概論	34
情報処理	15	歯内療法	36
化学	16	保存修復学	37
スポーツレクリエーション	17	歯科補綴学	38
解剖学	18	歯科予防処置演習Ⅰ(基礎知識・基本技術)	39
生理学	19	保健指導論	41
組織発生学	20	歯科診療補助法	43
口腔解剖学	21	歯科診療補助演習Ⅰ(基礎知識・基本技術)	44
口腔生理学	23	感染予防法	46
歯牙解剖学	25	臨地実習Ⅰ(臨床基礎)	47

5. 平成29年度以前入学生 教育課程(カリキュラムマップ)	49
6. 平成29年度以前入学生 カリキュラムツリー	50
7. 2年生 年間予定表	51
8. 2年生 シラバス	53

開講科目	頁	開講科目	頁
英会話Ⅱ(日常医療英会話)	53	障害者口腔保健学	66
情報処理Ⅱ(応用)	54	歯科放射線学	67
生化学	55	歯科予防処置演習Ⅱ(臨床前期)	68
地域福祉・保健統計	56	歯科予防処置演習Ⅲ(臨床後期)	69
衛生行政・社会保障	58	保健指導演習Ⅰ(臨床基礎)	70
社会福祉論	59	口腔リハビリテーション論	72
歯周療法学	60	歯科診療補助演習Ⅱ(臨床技術)	73
口腔外科学	62	臨床検査法	75
歯科矯正学	63	介護技術の基礎	76
発達歯科学	64	医療事務(歯科)	77
高齢者口腔保健学	65	臨地実習Ⅱ(臨床応用)	78

9. 3年生 年間予定表	81
10. 3年生 シラバス	83

開講科目	頁	開講科目	頁
心理学	83	救急法・救急蘇生法	91
人間関係論	84	歯科衛生研究法Ⅰ(臨床歯科)	92
臨床医学	85	歯科衛生研究法Ⅱ(歯科衛生主要3科)	93
歯科予防処置演習Ⅳ(臨床総合)	86	周術期在宅口腔ケア演習	94
歯科予防処置演習Ⅴ(臨床評価)	87	審美歯科演習	95
保健指導演習Ⅱ(臨床応用)	88	摂食・嚥下リハビリテーション演習	96
保健指導演習Ⅲ(臨床総合)	89	臨地実習Ⅲ(臨床総合)	97
歯科診療補助演習Ⅲ(臨床総合)	90		

11. 教員一覧	99
12. オフィシアワー	100

旧

目次

1. 平成30年度入学生 教育課程(カリキュラムマップ)	4
2. 平成30年度入学生 カリキュラムツリー	5
3. 1年生 年間予定表	6
4. 1年生 シラバス	8

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	8	病理学	26
英語 I	9	微生物学	27
歴史と文化	10	薬理学	29
手話	11	栄養学	30
大学生活論	12	衛生学・公衆衛生学	31
現代の社会	13	口腔衛生学	32
コミュニケーション演習	14	歯科衛生士概論	34
情報処理	15	歯内療法	36
化学	16	保存修復学	37
スポーツレクリエーション	17	歯科補綴学	38
解剖学	18	歯科予防処置演習Ⅰ(基礎知識・基本技術)	39
生理学	19	保健指導論	41
組織発生学	20	歯科診療補助法	43
口腔解剖学	21	歯科診療補助演習Ⅰ(基礎知識・基本技術)	44
口腔生理学	23	感染予防法	46
歯牙解剖学	25	臨地実習Ⅰ(臨床基礎)	47

5. 平成29年度以前入学生 教育課程(カリキュラムマップ)	51
6. 平成29年度以前入学生 カリキュラムツリー	52
7. 2年生 年間予定表	53
8. 2年生 シラバス	55

開講科目	頁	開講科目	頁
英会話Ⅱ(日常医療英会話)	55	障害者口腔保健学	68
情報処理Ⅱ(応用)	56	歯科放射線学	69
生化学	57	歯科予防処置演習Ⅱ(臨床前期)	70
地域福祉・保健統計	58	歯科予防処置演習Ⅲ(臨床後期)	71
衛生行政・社会保障	60	保健指導演習Ⅰ(臨床基礎)	72
社会福祉論	61	口腔リハビリテーション論	74
歯周療法学	62	歯科診療補助演習Ⅱ(臨床技術)	75
口腔外科学	64	臨床検査法	77
歯科矯正学	65	介護技術の基礎	78
発達歯科学	66	医療事務(歯科)	79
高齢者口腔保健学	67	臨地実習Ⅱ(臨床応用)	80

9. 3年生 年間予定表	83
10. 3年生 シラバス	85

開講科目	頁	開講科目	頁
心理学	85	救急法・救急蘇生法	93
人間関係論	86	歯科衛生研究法Ⅰ(臨床歯科)	94
臨床医学	87	歯科衛生研究法Ⅱ(歯科衛生主要3科)	95
歯科予防処置演習Ⅳ(臨床総合)	88	周術期在宅口腔ケア演習	96
歯科予防処置演習Ⅴ(臨床評価)	89	審美歯科演習	97
保健指導演習Ⅱ(臨床応用)	90	摂食・嚥下リハビリテーション演習	98
保健指導演習Ⅲ(臨床総合)	91	臨地実習Ⅲ(臨床総合)	99
歯科診療補助演習Ⅲ(臨床総合)	92		

11. 教員一覧	103
12. オフィシアワー	104

シラバス新旧比較対照表(中央キャンパス 歯科衛生学科)

新											
学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●		●	●							
科目名	大学生生活論				単位認定者	小野寺 健		試験(レポート)		60%	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年		評価の方法	授業内課題	10%		
				授業時間数	30 時間			受講態度	30%		
				授業形態	講義	授業回数		15 回			
授業の概要	大学生生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方(レポートの書き方、図書館の活用法等)、大学生生活の基礎知識(ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等)、健康に関わる知識(睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が出会うところの問題等)を身につける。										
到達目標	1.大学生・社会人として基本的なマナーを身につける。 2.大学生生活を有意義に送るために知識やスキルを身につける。										
学習者への期待等	大学生生活が有意義なものとなるよう設定した科目である。各自の目標を達成するために、積極的に学ぶことを期待する。併せて、多くの仲間を作り、いろいろな考えに触れることで、人間的にも成長することを期待している。										
回	授業計画				準備学習				担当		
1	大学生生活について：建学の精神、本学科の教育方針、入学許可証授与、教務オリエンテーション、授業のねらいと方針、教務関係ガイダンス、学業の到達目標(カリキュラムマップ、カリキュラムツリー)について								小野寺 健 大宮由布子 三浦 悦子		
2	大学生生活に関わる基礎知識1：学生生活のルールについて								学生総合 支援センター		
3	大学での学びについて1：大学時代になすべきこと、授業の受け方、ノートの取り方、自己学習(予習、復習)								小野寺 健		
4	大学での学びについて2：1) レポートのまとめかた、教科書・参考書の活用方法 2) 図書館の活用方法の講義と演習				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ次回提出のこと。(概ね1時間程度)				小野寺 健 図書館司書		
5	健康に関わる基礎知識1：からだの健康について(睡眠・食生活など)				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ次回提出のこと。(概ね1時間程度)				遠藤ちつる		
6	歯科衛生士になるための心構え1 社会人としての行動について								大宮由布子		
7	歯科衛生士になるための心構え2 医療倫理について				(事前) 「歯科医療倫理」 p1～p9を読 んでくること。(概ね30分程度)				大宮由布子		
8	ケーススタディ(前半グループ) こんな時どうする?				(事前) 「歯科医療倫理」 p52～p72を 読んでくること。(概ね30分程度)				大宮由布子		
9	ケーススタディ(後半グループ) こんな時どうする?				(事前) 「歯科医療倫理」 p52～p72を 読んでくること。(概ね30分程度)				大宮由布子		
10	健康に関わる基礎知識2： からだの健康について(ドラッグの危険性など)				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				遠藤ちつる 飯室 勉		
11	大学生生活に関わる基礎知識2：消費者トラブルについて				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				学生総合 支援センター		
12	大学生生活に関わる基礎知識3：ネット社会の危険について				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				学生総合 支援センター		
13	健康に関わる基礎知識3：大学で出会うところの問題				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				木内 彩乃		
14	大学生生活に関わる基礎知識4：交通ルールとマナーについて				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				学生総合 支援センター		
15	大学生生活に関わる基礎知識5：大学生のための主権者教育(選挙権)について				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				学生総合 支援センター		
教科書	参考資料を適宜配布する。各授業での持ち物：学生便覧、シラバス										
参考文献											
備考	レポート等、内容を確認して授業内で総括する。授業内容は、状況に応じて変更する場合がある。										

旧											
学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●		●	●							
科目名	大学生生活論				単位認定者	小野寺 健		試験(レポート)		70%	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年		評価の方法	受講態度	30%		
				授業時間数	30 時間			授業回数	15 回		
				授業形態	講義	授業回数		15 回			
授業の概要	大学生生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方(レポートの書き方、図書館の活用法等)、大学生生活の基礎知識(ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等)、健康に関わる知識(睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が出会うところの問題等)を身につける。										
到達目標	1.大学生・社会人として基本的なマナーを身につける。 2.大学生生活を有意義に送るために知識やスキルを身につける。										
学習者への期待等	大学生生活が有意義なものとなるよう設定した科目である。各自の目標を達成するために、積極的に学ぶことを期待する。併せて、多くの仲間を作り、いろいろな考えに触れることで、人間的にも成長することを期待している。										
回	授業計画				準備学習				担当		
1	大学生生活について：建学の精神、本学科の教育方針、入学許可証授与、教務オリエンテーション、授業のねらいと方針、教務関係ガイダンス、学業の到達目標(カリキュラムマップ、カリキュラムツリー)について								小野寺 健 大宮由布子 三浦 悦子		
2	大学生生活に関わる基礎知識1：学生生活のルールについて								学生総合 支援センター		
3	大学での学びについて1：大学時代になすべきこと、授業の受け方、ノートの取り方、自己学習(予習、復習)								小野寺 健		
4	大学での学びについて2：1) レポートのまとめかた、教科書・参考書の活用方法 2) 図書館の活用方法の講義と演習				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ次回提出のこと。(概ね1時間程度)				小野寺 健 図書館司書		
5	歯科衛生士になるための心構え1 社会人としての行動について								大宮由布子		
6	歯科衛生士になるための心構え2 医療倫理について				(事前) 「歯科医療倫理」 p1～p9を読 んでくること。(概ね30分程度)				大宮由布子		
7	ケーススタディ(前半グループ) こんな時どうする?				(事前) 「歯科医療倫理」 p52～p72を 読んでくること。(概ね30分程度)				大宮由布子		
8	ケーススタディ(後半グループ) こんな時どうする?				(事前) 「歯科医療倫理」 p52～p72を 読んでくること。(概ね30分程度)				大宮由布子		
9	大学生生活に関わる基礎知識2：消費者トラブルについて				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				学生総合 支援センター		
10	大学生生活に関わる基礎知識3：ネット社会の危険について				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				学生総合 支援センター		
11	大学生生活に関わる基礎知識4：交通ルールとマナーについて				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				学生総合 支援センター		
12	健康に関わる基礎知識1： からだの健康について(睡眠・食生活など)				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				遠藤ちつる		
13	健康に関わる基礎知識2： からだの健康について(ドラッグの危険性など)				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				遠藤ちつる		
14	健康に関わる基礎知識3：大学で出会うところの問題				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				伊丹 敬祐		
15	大学生生活に関わる基礎知識5：大学生のための主権者教育(選挙権)について				(事後) 講演内容をレポートとしてまとめ 次回提出のこと。(概ね1時間程度)				学生総合 支援センター		
教科書	参考資料を適宜配布する。各授業での持ち物：学生便覧、シラバス										
参考文献											
備考	レポート等、内容を確認して授業内で総括する。授業内容は、状況に応じて変更する場合がある。										

シラバス新旧比較対照表(中央キャンパス 歯科衛生学科)

新										
学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地球理解力					
	●	●		●						
科目名	情報処理				単位数	杉崎 新一		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学習する。									
到達目標	コンピュータ操作の初学者が操作を習得し、Word・Excel・PowerPointの一般的な操作が出来ることを目標とする。									
学修者への期待等	コンピュータの基本的な操作から学習を行う。初学者及び操作が苦手な者は、これを機に操作が出来るように学修していただきたい。これまでにコンピュータの操作を経験し、操作が出来る者であっても、自己流の操作を行う者が多いので、初心に戻り学習に臨んでいただきたい。また、周りに操作がわからない者がいたら積極的に操作を教えていただきたい。授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。									
回	授業計画				準備学習					
1	コンピュータの基本知識。画面の操作。情報セキュリティ。Word: Wordの立ち上げと基本操作				授業で学んだ操作内容を復習し、次回までに確実に操作できるようにすること。また、授業時間内に完成しなかった課題は次回の授業までに完成をしておくこと。復習時間は30分～1時間程度だが初学者は10分でもよいのでタイピング練習を週2回以上行うこと。					
2	Word: 文書の作成と印刷・ページ設定、ファイルの保存									
3	Word: 表の作成									
4	Word: 文書の編集									
5	Word: クリップアートやワードアートの使用による表現力アップ									
6	Word: クリップアートやワードアートの使用による表現力アップ									
7	PowerPoint: プレゼンテーションの操作と作成									
8	PowerPoint: 効果的なプレゼンテーションの作成									
9	Excel: Excelの基本操作と簡単な表作成、ブックの保存									
10	Excel: Excelの基本操作と簡単な表作成、ブックの保存									
11	Excel: 表作成(関数の使用、罫線や塗りつぶし、セルの書式設定)									
12	Excel: 表作成(行や列、セル設定)、表の印刷設定									
13	Excel: 相対参照と絶対参照の設定、色々な数式の使用									
14	Excel: グラフ作成									
15	Word, Excel, PowerPointの連携操作									
教科書	『30時間アカデミック 情報リテラシーOffice2013』杉本くみ子、大澤栄子著、実教出版									
参考文献	『2018 事例でわかる情報モラル』実教出版編集部編、実教出版									
備考	科目共用でよいので、授業で使用するデータ及び作成したデータを保存するUSBメモリを用意すること。他の科目でも必要となることある。高価なものを買う必要はないが、3年間使用することを考えてから購入すること。									

旧										
学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地球理解力					
	●	●		●						
科目名	情報処理				単位数	杉崎 新一		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学習する。									
到達目標	コンピュータ操作の初学者が操作を習得し、Word・Excel・PowerPointの一般的な操作が出来ることを目標とする。									
学修者への期待等	コンピュータの基本的な操作から学習を行う。初学者及び操作が苦手な者は、これを機に操作が出来るように学修していただきたい。これまでにコンピュータの操作を経験し、操作が出来る者であっても、自己流の操作を行う者が多いので、初心に戻り学習に臨んでいただきたい。また、周りに操作がわからない者がいたら積極的に操作を教えていただきたい。授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。									
回	授業計画				準備学習					
1	コンピュータの基本知識。画面の操作。情報セキュリティ。Word: Wordの立ち上げと基本操作				授業で学んだ操作内容を復習し、次回までに確実に操作できるようにすること。また、授業時間内に完成しなかった課題は次回の授業までに完成をしておくこと。復習時間は30分～1時間程度だが初学者は10分でもよいのでタイピング練習を週2回以上行うこと。					
2	Word: 文書の作成と印刷・ページ設定、ファイルの保存									
3	Word: 表の作成									
4	Word: 文書の編集									
5	Word: クリップアートやワードアートの使用による表現力アップ									
6	Word: クリップアートやワードアートの使用による表現力アップ									
7	PowerPoint: プレゼンテーションの操作と作成									
8	PowerPoint: 効果的なプレゼンテーションの作成									
9	Excel: Excelの基本操作と簡単な表作成、ブックの保存									
10	Excel: Excelの基本操作と簡単な表作成、ブックの保存									
11	Excel: 表作成(関数の使用、罫線や塗りつぶし、セルの書式設定)									
12	Excel: 表作成(行や列、セル設定)、表の印刷設定									
13	Excel: 相対参照と絶対参照の設定、色々な数式の使用									
14	Excel: グラフ作成									
15	Word, Excel, PowerPointの連携操作									
教科書	杉本くみ子/吉田栄子『30時間アカデミック 情報リテラシーOffice2013』科目共用でよいので、授業で使用するデータ及び作成したデータを保存するUSBメモリを用意す									
参考文献	情報モラル(実教出版)									
備考										

シラバス新旧比較対照表(中央キャンパス 歯科衛生学科)

新

旧

学習成果	1	2	3	4	5		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力		
	●	●					
科目名	口腔解剖学			単位認定者	小野寺 健 小川 徹	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位
						授業時間数	60 時間
				授業形態	講義	授業回数	30 回
						評価の方法	試験(筆記)
						授業内課題	20 %
						受講態度	20 %
授業の概要	口腔とは消化管の始まりの部分であり、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割があり、それらの機能を営むために、歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔解剖学、口腔組織発生学の概要を学び、歯及び口腔の解剖、発生について理解する。歯・口腔を解剖学的側面から説明できる。						
到達目標	歯・口腔とその周囲組織の構造・機能に関する理解を深め、説明できる。						
学習者への期待等	口腔の解剖に関する知識は、臨床を行う上でも不可欠なものとなる。学習量が多いので必ず復習をすること。また、必ず授業に参加すること。定期試験以外にも適宜、小テストを行う。						
回	授業計画	準備学習	担当				
1	口腔解剖学総論 頭蓋の骨 ①(頭蓋の骨の全体像・頭蓋の前面)	「2章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで授業に臨む。(概ね20分)	小野寺 健				
2	頭蓋の骨 ②(頭蓋の上面・後面・側面)	「2章 ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
3	頭蓋の骨 ③(頭蓋の下面・内面)	「2章の ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
4	頭蓋の骨 ④(顔面骨①)	「2章の ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
5	頭蓋の骨 ⑤(顔面骨②)	「2章の ②口腔を構成する骨」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。次回小テストを行う予定。(概ね3時間程度準備必要)	小野寺 健				
6	顎関節①(顎関節の構造)	「2章 ④顎関節」の部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
7	顎関節②(顎関節の働き)	「2章 ④顎関節」の部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
8	口腔の構成 ①(口唇と頬)	「1章 顔面と口腔の発生」の章を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
9	口腔の構成 ②(歯肉の構造)	「2章 ①口腔とは」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
10	口腔の構成 ③(口蓋と舌下部)	「2章 ①口腔とは」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
11	口腔の構成 ④(舌、味蕾)	「2章 ①口腔とは」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
12	唾液腺 ①(耳下腺、顎下腺)	「8章 ①唾液腺」を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
13	唾液腺 ②(舌下腺、小唾液腺)	「8章 ①唾液腺」を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
14	咽頭、喉頭(咽頭と喉頭の構造)	「6章 ①嚥下と嘔吐に関わる構造」を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				
15	口腔発生	「1章 顔面と口腔の発生」の章を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小野寺 健				

学習成果	1	2	3	4	5		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力		
	●	●					
科目名	口腔解剖学			単位認定者	小野寺 健 小川 徹	試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位
						授業時間数	60 時間
				授業形態	講義	授業回数	30 回
						評価の方法	試験(筆記)
						受講態度	20 %
授業の概要	口腔とは消化管の始まりの部分であり、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割があり、それらの機能を営むために、歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔解剖学、口腔組織発生学の概要を学び、歯及び口腔の解剖、発生について理解する。歯・口腔を解剖学的側面から説明できる。						
到達目標							
学習者への期待等							
回	授業計画	準備学習	担当				
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8				詳細は授業開始までにお知らせします。			
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

新				旧			
回	授業計画	準備学習	担当	回	授業計画	準備学習	担当
16	頭頸部の筋肉について(総論) 頭頸部の筋 ①(顔面筋)	「2章 ③頭頸部の筋と作用」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	16			
17	頭頸部の筋 ②(咀嚼筋とその作用)	「2章 ③頭頸部の筋と作用」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	17			
18	頭頸部の筋 ③(舌骨上筋群、舌骨下筋群とその作用)	「2章 ③頭頸部の筋と作用」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	18			
19	口腔付近の動脈 ①(脈管系総論と総頸動脈)	「2章 ⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	19			
20	口腔付近の動脈 ②(外頸動脈の枝・舌動脈と顔面動脈)	「2章 ⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、動脈系の対応する部分を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	20			
21	口腔付近の動脈 ③(顎動脈とその分枝)	「2章 ⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、動脈系の対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	21			
22	口腔付近の静脈(内頸静脈、下顎後静脈など)	「2章 ⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、静脈系の部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	22			
23	頭頸部のリンパ系(頭頸部のリンパ節の分布)	「2章 ⑤口腔付近に分布する脈管系」のうち、リンパ系の部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	23		詳細は授業開始までにお知らせします。	
24	神経学総論	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	24			
25	頭頸部の神経 ①(脳神経)	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	25			
26	頭頸部の神経 ②(嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経)	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	26			
27	頭頸部の神経 ③(三叉神経とその分枝 ①)	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	27			
28	頭頸部の神経 ④(三叉神経とその分枝 ②、顔面神経、内耳神経)	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	28			
29	頭頸部の神経 ⑤(舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経)	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	29			
30	頭頸部の神経 ⑥(脊髄神経と自律神経系)	「2章 ⑥神経」のうち、対応する部位を読んで授業に臨むこと。(概ね20分)	小川 徹	30			
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 頭蓋骨の模型・プロジェクターを使用する。プリントを配布する。			教科書	「最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 頭蓋骨の模型・プロジェクターを使用する。プリントを配布する。		
参考文献	適宜紹介する。			参考文献			
備考	小テスト等は、回収後、採点し、次回総括する。			備考			

新

学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	単位認定者		半田 慶介		試験(筆記)	80 %
	●	●	●	●	●						
科目名	保存修復学					単位認定者		半田 慶介		試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1	単位	評価の方法	受講態度	20 %
授業の概要	保存修復学とは、う蝕などの硬組織疾患によって生じた欠損部の修復法やその材料について学ぶ学問である。古くはアマルガム修復法や金箔充填修復法があり、適合性や物性の改良を目指したインレー修復法、さらに一回の処置で修復し、審美性も兼ね備えているコンポジットレジン修復法やグラスイオノマー修復法、審美性の回復を目指すラミネートベニア修復法など様々な方法及び材料がある。本科目では、保存修復学の基礎を学び、保存修復に関する診療補助の能力を習得する。										
	到達目標	保存修復学の基礎を学び、保存修復に関する診療補助の能力を習得する。									
学修者への期待等	講義内容の理解を確実にするため、授業内容の復習を期待します。特に授業で出てくる特殊な単語を理解するように心がけて下さい。										
回	授業計画					準備学習					
1	概論（保存修復学の意味と概要）					プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。（概ね20分）					
2	う蝕（う蝕の病態と窩洞形成）と歯髄保護					プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。（概ね20分）					
3	診査診断と前準備					プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。（概ね20分）					
4	直接修復法①（コンポジットレジンとは）					プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。（概ね20分）					
5	直接修復法②（コンポジットレジン修復）					プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。（概ね20分）					
6	直接修復法③（グラスイオノマーセメント）					プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。（概ね20分）					
7	間接修復法①（メタルインレー修復）					プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。（概ね20分）					
8	間接修復法②（審美的間接修復）					プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。（概ね20分）					
9	間接修復法③（合着法）					プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。（概ね20分）					
10	その他（漂白法及びその他の修復）					プリントを配布するので、授業終了後に復習すること。（概ね20分）					
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社										
参考文献											
備考											

旧

学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	単位認定者		半田 慶介		試験(筆記)	80 %
	●	●	●	●	●						
科目名	保存修復学					単位認定者		半田 慶介		試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1	単位	評価の方法	受講態度	20 %
授業の概要	保存修復学とは、う蝕などの硬組織疾患によって生じた欠損部の修復法やその材料について学ぶ学問である。古くはアマルガム修復法や金箔充填修復法があり、適合性や物性の改良を目指したインレー修復法、さらに一回の処置で修復し、審美性も兼ね備えているコンポジットレジン修復法やグラスイオノマー修復法、審美性の回復を目指すラミネートベニア修復法など様々な方法及び材料がある。本科目では、保存修復学の基礎を学び、保存修復に関する診療補助の能力を習得する。										
	到達目標	保存修復学の基礎を学び、保存修復に関する診療補助の能力を習得する。									
学修者への期待等	講義内容の理解を確実にするため、授業内容の復習を期待します。特に授業で出てくる特殊な単語を理解するように心がけて下さい。										
回	授業計画					準備学習					
1											
2											
3											
4											
5											
6						詳細は授業開始までにお知らせします。					
7											
8											
9											
10											
教科書	最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患（保存修復・歯内療法）、全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版										
参考文献											
備考											

新

旧

学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	単位認定者		伊藤 恵美, 三浦 悦子 鷲尾 純平		試験(筆記)	80 %
●	●										
科目名	歯科予防処置演習Ⅰ(基礎知識・基本技術)					単位認定者		伊藤 恵美, 三浦 悦子 鷲尾 純平		試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位		評価の方法	授業内課題	10 %
							授業時間数	60 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	30 回				
授業の概要	歯周病予防法とう蝕予防法の基礎知識と基本技術を学ぶ。歯周組織の健康像と病的変化を把握する。その手技としての各検査法、スケーリング、PMTCの技術を顎模型上で身につける。また、健康とQOLに関わりのある口腔保健管理の理論を学ぶ。予防的歯石除去法の基礎知識を学び、それに用いる器具・器材の使用法と手技を理解する。また、口腔観察の基本について学ぶ。う蝕の原因及びう蝕予防法を理解し、基礎的知識を習得する。										
到達目標	1. 歯周病予防法の基礎知識を理解し、基本的な技術を習得する 2. う蝕の原因とその予防法を理解しその技術を習得する										
学修者への期待等	1. 実習では身だしなみを整え授業に臨むこと 2. 実習記録などの提出物の期限を厳守すること										
回	授業計画					準備学習		担当			
1	1. 歯科予防処置法とは 2. 口腔の基礎知識					教科書P2～5 I編 総論を読んでおくこと(30分程度)		三浦 悦子			
2	歯周病の基礎知識Ⅰ(口腔内の付着物・沈着物)					教科書P12～25 II編 1～2章を読んでおくこと(45分程度)		三浦 悦子			
3	う蝕の基礎知識①(う蝕はどのようにできるのか?)					授業後に配布するプリント及び教科書を用いてよく復習すること(30分程度)		鷲尾 純平			
4	う蝕の基礎知識②(う蝕を予防するには?)					同上		鷲尾 純平			
5	歯周病の基礎知識Ⅱ(歯周病の分類と原因)					教科書P28～32 II編2章歯周病について読んでおくこと(30分程度)		三浦 悦子			
6	う蝕活動性試験①(各種検査方法について①)(講義・実習)					実習で行う検査方法について、教科書で予習を行うこと(30分程度)		鷲尾 純平			
7	う蝕活動性試験②(実習)(各種検査方法について②・まとめ)					同上		鷲尾 純平			
8	歯周検査(基礎知識と器材の取り扱い、顎模型実習)					教科書P82～101 III編2章口腔内の情報収集について読んでおくこと(45分程度)		三浦 悦子			
9	歯周検査相互実習①					教科書P91～100 III編2章エキスプローラー、プロービング、歯の動揺度について復習を行い、P318～319V編1章口腔内検査について読んでおくこと(45分程度)		三浦 悦子			
10	歯周検査相互実習②					同上		三浦 悦子			
11	スケーリングの基礎知識(1.スケーリングとは 2.スケーリングに用いる器具器材 3.ミラーテクニック)					教科書P130～141 III編3章スケーリング、ミラーテクニックについて読んでおくこと(30分程度)		三浦 悦子			
12	シックルタイプスケーラー顎模型実習(スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング) 2 1～2 7番歯							三浦 悦子			
13	シックルタイプスケーラー顎模型実習(スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング) 1 1～1 7番歯					教科書III編3章P131～141 スケーリングについて復習を行い、P142～153を熟読し実習に臨むこと(45分程度)		三浦 悦子			
14	シックルタイプスケーラー顎模型実習(スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング) 4 1～4 7番歯							三浦 悦子			
15	シックルタイプスケーラー顎模型実習(スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング) 3 1～3 7番歯							三浦 悦子			

学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	単位認定者		伊藤 恵美, 三浦 悦子 鷲尾 純平		試験(筆記)	80 %
●	●										
科目名	歯科予防処置演習Ⅰ(基礎知識・基本技術)					単位認定者		伊藤 恵美, 三浦 悦子 鷲尾 純平		試験(筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位		評価の方法	授業内課題	10 %
							授業時間数	60 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	30 回				
授業の概要	歯周病予防法とう蝕予防法の基礎知識と基本技術を学ぶ。歯周組織の健康像と病的変化を把握する。その手技としての各検査法、スケーリング、PMTCの技術を顎模型上で身につける。また、健康とQOLに関わりのある口腔保健管理の理論を学ぶ。予防的歯石除去法の基礎知識を学び、それに用いる器具・器材の使用法と手技を理解する。また、口腔観察の基本について学ぶ。う蝕の原因及びう蝕予防法を理解し、基礎的知識を習得する。										
到達目標	1. 歯周病予防法の基礎知識を理解し、基本的な技術を習得する 2. う蝕の原因とその予防法を理解しその技術を習得する										
学修者への期待等	1. 実習では身だしなみを整え授業に臨むこと 2. 実習記録などの提出物の期限を厳守すること										
回	授業計画					準備学習		担当			
1	1. 歯科予防処置法とは 2. 口腔の基礎知識					教科書P2～5 I編 総論を読んでおくこと(30分程度)		三浦 悦子			
2	歯周病の基礎知識Ⅰ(口腔内の付着物・沈着物)					教科書P12～25 II編 1～2章を読んでおくこと(45分程度)		三浦 悦子			
3	う蝕の基礎知識①(う蝕はどのようにできるのか?)					授業後に配布するプリント及び教科書を用いてよく復習すること(30分程度)		鷲尾 純平			
4	う蝕の基礎知識②(う蝕を予防するには?)					同上		鷲尾 純平			
5	う蝕活動性試験①(各種検査方法について①)(講義・実習)					実習で行う検査方法について、教科書で予習を行うこと(30分程度)		鷲尾 純平			
6	う蝕活動性試験②(実習)(各種検査方法について②・まとめ)					同上		鷲尾 純平			
7	歯周病の基礎知識Ⅱ(歯周病の分類と原因)					教科書P28～32 II編2章歯周病について読んでおくこと(30分程度)		三浦 悦子			
8	歯周検査(基礎知識と器材の取り扱い、顎模型実習)					教科書P82～101 III編2章口腔内の情報収集について読んでおくこと(45分程度)		三浦 悦子			
9	歯周検査相互実習①					教科書P91～100 III編2章エキスプローラー、プロービング、歯の動揺度について復習を行い、P318～319V編1章口腔内検査について読んでおくこと(45分程度)		三浦 悦子			
10	歯周検査相互実習②					同上		三浦 悦子			
11	スケーリングの基礎知識(1.スケーリングとは 2.スケーリングに用いる器具器材 3.ミラーテクニック)					教科書P130～141 III編3章スケーリング、ミラーテクニックについて読んでおくこと(30分程度)		三浦 悦子			
12	シックルタイプスケーラー顎模型実習(スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング) 2 1～2 7番歯							三浦 悦子			
13	シックルタイプスケーラー顎模型実習(スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング) 1 1～1 7番歯					教科書III編3章P131～141 スケーリングについて復習を行い、P142～153を熟読し実習に臨むこと(45分程度)		三浦 悦子			
14	シックルタイプスケーラー顎模型実習(スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング) 4 1～4 7番歯							三浦 悦子			
15	シックルタイプスケーラー顎模型実習(スケーラー把持法、動かし方、ポジショニング) 3 1～3 7番歯							三浦 悦子			

新

平成30年度 歯科衛生学科 2年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土						
10月	30	1	1	2	3	3	3	4	3	5	2	6	
	7	8	9	4	10	4	11	4	12	3	13		
	14	15	2	16	5	17	5	18	5	19	4	20	
	21	22	3	23	6	24	6	25	6	26	短大祭準備	27	短大祭
	28	29	4	30	7	31	7	1	7	2	5	3	
11月	4	5	5	6	8	7	8	8	8	9	6	10	
	11	12	大学①/予備日	13	大学②/医院①	14	大学③/医院②	15	大学④/医院③	16	大学⑤/医院④	17	
	18	19	大学⑥/医院⑤	20	大学⑦/医院⑥	21	大学⑧/医院⑦	22	大学⑨/医院⑧	23		24	
	25	26	大学⑩/医院⑨	27	大学⑪/医院⑩	28	大学⑫/医院⑪	29	大学⑬/医院⑫	30	大学⑭/医院⑬	1	
12月	2	3	登校日/医院⑭	4	臨地①/医院⑮	5	臨地②/医院⑯	6	臨地③/医院⑰	7	臨地④/医院⑱	8	
	9	10	臨地⑤/予備日	11	予備日/予備日	12	9	13	9	14	7	15	
	16	17	6	18	9	19	10	20	10	21	8	22	
	23	24		25	冬休み	26	冬休み	27	冬休み	28	冬休み	29	
	30	31		1	2	3	4	冬休み	5				
1月	6	7	試験1	8	試験2	9	試験3	10	試験4	11	追試	12	
	13	14		15	予備日/大学①	16	医院①/大学②	17	医院②/大学③	18	医院③/大学④	19	
	20	21	医院④/大学⑤	22	医院⑤/大学⑥	23	医院⑥/大学⑦	24	医院⑦/大学⑧	25	医院⑧/大学⑨	26	
	27	28	医院⑨/大学⑩	29	医院⑩/大学⑪	30	医院⑪/大学⑫	31	医院⑫/大学⑬	1	医院⑬/大学⑭	2	
	2月	3	4	医院⑭/登校日	5	医院⑮/臨地①	6	医院⑯/臨地②	7	医院⑰/臨地③	8	医院⑱/臨地④	9
10		11		12	予備日/臨地⑤	13	予備日/予備日	14	臨地予備/臨地予備	15	臨地予備/臨地予備	16	
17		18	臨地予備/臨地予備	19	登校日 (不合格者発表)	20	手続き	21	手続き	22	手続き	23	
24		25	手続き	26	手続き	27	手続き	28	再試験1	1	再試験2	2	
3月	3	4	再試験3	5	春休み	6	春休み	7	春休み	8	春休み	9	
	10	11	春休み	12	春休み	13	春休み	14	春休み	15	春休み	16	
	17	18	春休み	19	春休み	20	春休み (卒業式)	21		22	春休み	23	
	24	25	春休み	26	春休み	27	春休み	28	春休み	29	春休み	30	

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

旧

平成30年度 歯科衛生学科 2年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土						
10月	30	1	1	2	3	3	3	4	3	5	2	6	
	7	8	9	4	10	4	11	4	12	3	13		
	14	15	2	16	5	17	5	18	5	19	4	20	
	21	22	3	23	6	24	6	25	6	26	短大祭準備	27	短大祭
	28	29	4	30	7	31	7	1	7	2	5	3	
11月	4	5	5	6	8	7	8	8	8	9	6	10	
	11	12	6	13	大学①/医院①	14	大学②/医院②	15	大学③/医院③	16	大学④/医院④	17	
	18	19	大学⑤/医院⑤	20	大学⑥/医院⑥	21	大学⑦/医院⑦	22	大学⑧/医院⑧	23		24	
	25	26	大学⑨/医院⑨	27	大学⑩/医院⑩	28	大学⑪/医院⑪	29	大学⑫/医院⑫	30	登校日/医院⑬	1	
12月	2	3	臨地①/医院⑭	4	臨地②/医院⑮	5	臨地③/医院⑯	6	臨地④/医院⑰	7	臨地⑤/医院⑱	8	
	9	10	臨地⑥/予備日	11	予備日/予備日	12	9	13	9	14	7	15	
	16	17	7	18	9	19	10	20	10	21	8	22	
	23	24		25	冬休み	26	冬休み	27	冬休み	28	冬休み	29	
	30	31		1	2	3	4	冬休み	5				
1月	6	7	試験1	8	試験2	9	試験3	10	試験4	11	試験5	12	
	13	14		15	追試験	16	医院①/大学①	17	医院②/大学②	18	医院③/大学③	19	
	20	21	医院④/大学④	22	医院⑤/大学⑤	23	医院⑥/大学⑥	24	医院⑦/大学⑦	25	医院⑧/大学⑧	26	
	27	28	医院⑨/大学⑨	29	医院⑩/大学⑩	30	医院⑪/大学⑪	31	医院⑫/大学⑫	1	医院⑬/登校日	2	
	2月	3	4	医院⑭/臨地①	5	医院⑮/臨地②	6	医院⑯/臨地③	7	医院⑰/臨地④	8	医院⑱/臨地⑤	9
10		11		12	予備日/臨地⑥	13	予備日/予備日	14	臨地予備/臨地予備	15	臨地予備/臨地予備	16	
17		18	臨地予備/臨地予備	19	登校日 (不合格者発表)	20	手続き	21	手続き	22	手続き	23	
24		25	手続き	26	手続き	27	手続き	28	再試験1	1	再試験2	2	
3月	3	4	再試験3	5	春休み	6	春休み	7	春休み	8	春休み	9	
	10	11	春休み	12	春休み	13	春休み	14	春休み	15	春休み	16	
	17	18	春休み	19	春休み	20	春休み (卒業式)	21		22	春休み	23	
	24	25	春休み	26	春休み	27	春休み	28	春休み	29	春休み	30	

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

シラバス新旧比較対照表 (中央キャンパス 歯科衛生学科)

新										旧															
学習成果	1	2	3	4	5						試験(筆記)	70 %	学習成果	1	2	3	4	5						試験(筆記)	70 %
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●			
科目名	口腔外科学					単位履修者	高橋 哲 宮下 仁	永井 千葉	宏和 雅俊	評価の方法	試験(筆記)	70 %	科目名	口腔外科学					単位履修者	高橋 哲 宮下 仁	永井 千葉	宏和 雅俊	評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		講義		受講態度	30 %	対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		講義		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間				授業回数	15 回								授業時間数	30 時間			授業回数	15 回
授業の概要	口腔・顎顔面領域における各種疾患及び口腔に関連した全身疾患について、基本的な知識を学習し、患者の全身状態を考慮した歯科治療を介助する上で必要な知識を理解する。全身状態の管理を含めた麻酔学と救急蘇生についても学習する。 また、口腔外科学診療に際して求められる知識の習得を目標とする。												授業の概要	口腔・顎顔面領域における各種疾患及び口腔に関連した全身疾患について、基本的な知識を学習し、患者の全身状態を考慮した歯科治療を介助する上で必要な知識を理解する。全身状態の管理を含めた麻酔学と救急蘇生についても学習する。 また、口腔外科学診療に際して求められる知識の習得を目標とする。											
到達目標	口腔外科学の診療補助の能力を習得する。ただし各項目については、診察補助の範囲を考慮する。												到達目標	口腔外科学の診療補助の能力を習得する。ただし各項目については、診察補助の範囲を考慮する。											
学修者への 期待等	あらかじめ教科書を熟読し、質問事項を用意して授業に臨む。私語、居眠りを慎む、疑問点は説教的に質問する。配布したプリントも参考にする。												学修者への 期待等	あらかじめ教科書を熟読し、質問事項を用意して授業に臨む。私語、居眠りを慎む、疑問点は説教的に質問する。配布したプリントも参考にする。											
回	授業計画					準備学習					担当	回	授業計画					準備学習					担当		
1	総論 ウイルス疾患、消毒等に関する内容を中心として口腔外科一般について					【事前】教科書の「I編1章 口腔外科の概要」を通読しておくこと(約30分)					高橋 哲	1	総論 ウイルス疾患、消毒等に関する内容を中心として口腔外科一般について					【事前】教科書の「I編1章 口腔外科の概要」を通読しておくこと(約30分)					高橋 哲		
2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常 歯の異常、口腔軟組織の先天異常、唇裂・口蓋裂、顎の先天異常と変形について					【事前】教科書の「I編2章 顎・口腔領域の先天異常と発育異常」を通読しておくこと(約30分)					永井 宏和	2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常 歯の異常、口腔軟組織の先天異常、唇裂・口蓋裂、顎の先天異常と変形について					【事前】教科書の「I編2章 顎・口腔領域の先天異常と発育異常」を通読しておくこと(約30分)					永井 宏和		
3	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 歯周組織の炎症、顎骨および顎骨周囲組織の炎症について					【事前】教科書の「I編5章 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患」を通読しておくこと(約30分)					永井 宏和	3	顎・口腔領域の損傷および機能障害 歯の外傷、顎骨骨折、軟組織の損傷について					【事前】教科書の「I編3章 顎・口腔領域の損傷および機能障害」を通読しておくこと(約30分)					宮下 仁		
4	顎・口腔領域の損傷および機能障害 歯の外傷、顎骨骨折、軟組織の損傷について					【事前】教科書の「I編3章 顎・口腔領域の損傷および機能障害」を通読しておくこと(約30分)					宮下 仁	4	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 歯周組織の炎症、顎骨および顎骨周囲組織の炎症について					【事前】教科書の「I編5章 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患」を通読しておくこと(約30分)					永井 宏和		
5	口腔粘膜の病変(1) 水疱形成、紅斑およびびらん、潰瘍、白斑、色素沈着、それぞれを主徴とする疾患、その他について					【事前】教科書の「I編4章 口腔粘膜の病変」を通読しておくこと(約30分)					千葉 雅俊	5	口腔粘膜の病変(1) 水疱形成、紅斑およびびらん、潰瘍、白斑、色素沈着、それぞれを主徴とする疾患、その他について					【事前】教科書の「I編4章 口腔粘膜の病変」を通読しておくこと(約30分)					千葉 雅俊		
6	口腔粘膜の病変(2) 粘膜の出血および貧血を主徴とする疾患について					【事前】教科書の「I編4章 口腔粘膜の病変」を通読しておくこと(約30分)					千葉 雅俊	6	唾液腺疾患 炎症を生じる唾液腺疾患、唾液腺腫瘍などについて					【事前】教科書の「I編8章 唾液腺疾患」を通読しておくこと(約30分)					永井 宏和		
7	唾液腺疾患 炎症を生じる唾液腺疾患、唾液腺腫瘍などについて					【事前】教科書の「I編8章 唾液腺疾患」を通読しておくこと(約30分)					永井 宏和	7	口腔粘膜の病変(2) 粘膜の出血および貧血を主徴とする疾患について					【事前】教科書の「I編4章 口腔粘膜の病変」を通読しておくこと(約30分)					千葉 雅俊		
8	顎・口腔領域の嚢胞性疾患 顎骨内に生じる嚢胞、軟組織に生じる嚢胞について					【事前】教科書の「I編6章 顎・口腔領域の嚢胞性疾患」を通読しておくこと(約30分)					宮下 仁	8	顎・口腔領域の嚢胞性疾患 顎骨内に生じる嚢胞、軟組織に生じる嚢胞について					【事前】教科書の「I編6章 顎・口腔領域の嚢胞性疾患」を通読しておくこと(約30分)					宮下 仁		
9	口腔領域の神経疾患 顎関節疾患 神経痛、神経麻痺および顎関節症などの顎関節疾患について					【事前】教科書の「I編3章 顎・口腔領域の損傷および機能障害の顎関節疾患と9章 口腔領域の神経疾患」を通読しておくこと(約40分)					千葉 雅俊	9	口腔領域の神経疾患 顎関節疾患 神経痛、神経麻痺および顎関節症などの顎関節疾患について					【事前】教科書の「I編3章 顎・口腔領域の損傷および機能障害の顎関節疾患と9章 口腔領域の神経疾患」を通読しておくこと(約40分)					千葉 雅俊		
10	口腔外科診療の実際(1) (口腔外科治療の流れ、診察と診断 他) 口腔外科治療の流れ、診察と診断、清潔と不潔、創傷の処置について					【事前】教科書の「I編1章の基礎疾患と歯科治療、10章 口腔外科診療の実際」を通読しておくこと(約30分)					千葉 雅俊	10	歯科治療における歯科麻酔と患者管理、局所麻酔、精神鎮静法 全身状態の評価と患者管理および局所麻酔、精神鎮静法について					【事前】教科書の「I編1章 歯科治療における歯科麻酔と患者管理、2章 局所麻酔、3章 精神鎮静法」を通読しておくこと(約40分)					永井 宏和		
11	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍、非歯源性悪性腫瘍前癌病変について					【事前】教科書の「I編7章 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患」を通読しておくこと(約40分)					宮下 仁	11	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍、非歯源性悪性腫瘍前癌病変について					【事前】教科書の「I編7章 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患」を通読しておくこと(約40分)					宮下 仁		
12	口腔外科診療の実際(2) (抜歯術、歯根端切除術) 抜歯術、歯根端切除術などの口腔外科小手術について					【事前】教科書の「I編10章 口腔外科診療の実際」を通読しておくこと(約50分)					宮下 仁	12	口腔外科診療の実際(1) (口腔外科治療の流れ、診察と診断 他) 口腔外科治療の流れ、診察と診断、清潔と不潔、創傷の処置について					【事前】教科書の「I編1章の基礎疾患と歯科治療、10章 口腔外科診療の実際」を通読しておくこと(約30分)					千葉 雅俊		
13	口腔外科診療の実際(3) (口腔外科小手術、止血、縫合処置) 良性腫瘍摘出術、歯槽骨整形術、小帯切除術、口腔インプラント手術などの口腔外科小手術および止血処置、縫合処置について					【事前】教科書の「I編10章 口腔外科診療の実際」を通読しておくこと(約50分)					宮下 仁	13	全身麻酔、救急蘇生法 全身麻酔および救急蘇生のABCについて					【事前】教科書の「I編4章 全身麻酔、5章 救急蘇生法」を通読しておくこと(約50分)					永井 宏和		
14	歯科治療における歯科麻酔と患者管理、局所麻酔、精神鎮静法 全身状態の評価と患者管理および局所麻酔、精神鎮静法について					【事前】教科書の「I編1章 歯科治療における歯科麻酔と患者管理、2章 局所麻酔、3章 精神鎮静法」を通読しておくこと(約40分)					永井 宏和	14	口腔外科診療の実際(2) (抜歯術、歯根端切除術) 抜歯術、歯根端切除術などの口腔外科小手術について					【事前】教科書の「I編10章 口腔外科診療の実際」を通読しておくこと(約50分)					宮下 仁		
15	全身麻酔、救急蘇生法 全身麻酔および救急蘇生のABCについて					【事前】教科書の「I編4章 全身麻酔、5章 救急蘇生法」を通読しておくこと(約50分)					永井 宏和	15	口腔外科診療の実際(3) (口腔外科小手術、止血、縫合処置) 良性腫瘍摘出術、歯槽骨整形術、小帯切除術、口腔インプラント手術などの口腔外科小手術および止血処置、縫合処置について					【事前】教科書の「I編10章 口腔外科診療の実際」を通読しておくこと(約50分)					宮下 仁		
教科書	「最新歯科衛生士教本 口腔外科学・歯科麻酔学」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社											教科書	最新歯科衛生士教本 口腔外科学・歯科麻酔学、全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版												
参考文献												参考文献													
備考												備考													

シラバス新旧比較対照表(中央キャンパス 歯科衛生学科)

新											旧																
学習成果	1	2	3	4	5						試験(筆記)	80 %	学習成果	1	2	3	4	5						試験(筆記)	80 %		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●					
科目名	発達歯科学					単位認定者	山田 亜矢				試験(筆記)	80 %	科目名	発達歯科学					単位認定者	山田 亜矢				試験(筆記)	80 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位				評価の方法	受講態度	20 %	対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位				評価の方法	受講態度	20 %
					授業時間数	30 時間				授業回数		15 回															
				授業形態	講義																						
授業の概要	口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士の役割を理解するとともに、臨床の場に対応できるような能力の基礎を総合的に学ぶ。小児の心身の発達に伴う基本的知識や、小児の歯科疾患、予防法、診療補助等についての知識を習得する。												授業の概要	口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士の役割を理解するとともに、臨床の場に対応できるような能力の基礎を総合的に学ぶ。小児の心身の発達に伴う基本的知識や、小児の歯科疾患、予防法、診療補助等についての知識を習得する。													
到達目標	口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士としての役割を理解する。小児期の歯科医療について総合的に学ぶ。												到達目標	口腔疾患の発病、進行時期として重要な小児期における歯科衛生士としての役割を理解する。小児期の歯科医療について総合的に学ぶ。													
学修者への期待等	講義後の該当箇所について、教科書による復習を行うこと。												学修者への期待等	講義後の該当箇所について、教科書による復習を行うこと。													
回	授業計画					準備学習							回	授業計画					準備学習								
1	小児歯科概論 小児歯科診療と歯科衛生士の役割について					教科書の2~4、64~69、177~181ページを予習(概ね30分程度)							1	小児歯科概論 小児歯科診療と歯科衛生士の役割について					教科書の2~4、91~96、177~181ページを予習(概ね30分程度)								
2	心身の発育 発達概念と分類、発育の評価、生理的年齢、器官の発育、精神的発達					教科書の5~14ページを予習(概ね30分程度)							2	心身の発育 発達概念と分類、発育の評価、生理的年齢、器官の発育、精神的発達					教科書の5~14ページを予習(概ね30分程度)								
3	心身の発育II 小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育 顔面頭蓋の発育、顎の発育とその評価					教科書の15~24ページを予習(概ね30分程度)							3	心身の発育II 小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育 顔面頭蓋の発育、顎の発育とその評価					教科書の15~24ページを予習(概ね30分程度)								
4	歯の発育と異常 歯の発育時期と形成障害、萌出異常					教科書の30~35ページを予習(概ね30分程度)							4	歯の発育と異常 歯の発育時期と形成障害、萌出異常					教科書の30~35ページを予習(概ね30分程度)								
5	歯列・咬合の発育と異常 歯列および咬合の発育と発育異常					教科書の36~44ページを予習(概ね30分程度)							5	歯列・咬合の発育と異常 歯列および咬合の発育と発育異常					教科書の36~44ページを予習(概ね30分程度)								
6	乳歯・幼若永久歯の特徴 乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕					教科書の25~30、45~49ページを予習(概ね30分程度)							6	乳歯・幼若永久歯の特徴 乳歯・幼若永久歯の特徴とう蝕					教科書の25~30、45~49ページを予習(概ね30分程度)								
7	小児の歯科疾患 歯周疾患、口腔軟組織の異常					教科書の49~57ページを予習(概ね30分程度)							7	小児の歯科疾患 歯周疾患、口腔軟組織の異常					教科書の49~57ページを予習(概ね30分程度)								
8	小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科診療体系					教科書の60~63、83~85ページを予習(概ね30分程度)							8	小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科診療体系					教科書の60~66ページを予習(概ね30分程度)								
9	小児歯科診療体系					教科書の85~91、(64~69)、124~128、140~142ページを予習(概ね30分程度)							9	小児歯科診療体系					教科書の66~72、(91~96)、124~128、140~142ページを予習(概ね30分程度)								
10	患児の対応法 年齢別小児の行動とその対応、不協力的小児の対応法					教科書の69~77を予習(概ね30分程度)							10	患児の対応法 年齢別小児の行動とその対応、不協力的小児の対応法					教科書の96~104を予習(概ね30分程度)								
11	患児の対応法(続き) 障害児の歯科治療					教科書の78~82、110~122ページを予習(概ね30分程度)							11	患児の対応法(続き) 障害児の歯科治療					教科書の105~122ページを予習(概ね30分程度)								
12	う蝕予防処置について					教科書の129~139ページを予習(概ね30分程度)							12	う蝕予防処置について					教科書の129~139ページを予習(概ね30分程度)								
13	診療補助 歯冠修復					教科書の91~96、142~154ページを予習(概ね30分程度)							13	診療補助 歯冠修復					教科書の72~77、142~154ページを予習(概ね30分程度)								
14	診療補助 乳歯歯内療法					教科書の96~99、154~163ページを予習(概ね30分程度)							14	診療補助 乳歯歯内療法					教科書の77~80、154~163ページを予習(概ね30分程度)								
15	診療補助 外傷、抜歯、咬合誘導、リコールについて					教科書の99~109、163~176ページを予習(概ね30分程度)							15	診療補助 外傷、抜歯、咬合誘導、リコールについて					教科書の80~90、163~176ページを予習(概ね30分程度)								
教科書	「最新歯科衛生士教本 小児歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社												教科書	最新歯科衛生士教本 小児歯科、全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版													
参考文献													参考文献														
備考													備考														

シラバス新旧比較対照表 (中央キャンパス 歯科衛生学科)

新										旧											
学習成果	1	2	3	4	5						学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力							基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
●	●	●	●	●							●	●	●	●							
科目名	歯科予防処置演習Ⅱ (臨床前期)				単位履修者	伊藤 恵美 鷲尾 純平		評価の方法	試験 (筆記)	80 %	科目名	歯科予防処置演習Ⅱ (臨床前期)				単位履修者	伊藤 恵美 鷲尾 純平		評価の方法	試験 (筆記)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %	対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間									授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
						授業回数	15 回									授業回数	15 回				
授業の概要	歯周病予防法を理解し歯周組織の健康像と病的変化を把握する。その手技としての各検査法、スケーリング、PMTCの技術を相互実習または顎模型を使用して身につける。また、健康とQOLにかかわりのある口腔保健管理の理論を習得する。「歯科予防処置演習Ⅰ (基礎知識・基本技術)」で学んだ知識と技術を踏まえ、相互実習で実際に口の中での技術を学ぶ。加えて、口腔観察や歯周病の継続管理の方法を習得する。さらに、「歯科予防処置演習Ⅰ (基礎知識・基本技術)」で学んだう蝕及びう蝕予防法の知識を基に、顎模型上での演習を通してその技術を習得する。										歯周病予防法を理解し歯周組織の健康像と病的変化を把握する。その手技としての各検査法、スケーリング、PMTCの技術を相互実習または顎模型を使用して身につける。また、健康とQOLにかかわりのある口腔保健管理の理論を習得する。「歯科予防処置演習Ⅰ (基礎知識・基本技術)」で学んだ知識と技術を踏まえ、相互実習で実際に口の中での技術を学ぶ。加えて、口腔観察や歯周病の継続管理の方法を習得する。さらに、「歯科予防処置演習Ⅰ (基礎知識・基本技術)」で学んだう蝕及びう蝕予防法の知識を基に、顎模型上での演習を通してその技術を習得する。										
到達目標	①う蝕予防の基本知識を基にフッ化物によるう蝕予防法を実施できる。 ②歯周組織の健康像と病的変化を把握し、歯周検査、スケーリング、PMTCを実践できる。										①う蝕予防の基本知識を基にフッ化物によるう蝕予防法を実施できる。 ②歯周組織の健康像と病的変化を把握し、歯周検査、スケーリング、PMTCを実践できる。										
学修者への期待等	①実習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。 ②提出物は、期日を守って提出すること。										①実習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。 ②提出物は、期日を守って提出すること。										
回	授業計画				準備学習				担当		回	授業計画				準備学習				担当	
1	フッ化物について (講義)				授業時に配布するプリントおよび教科書を用いてよく復習すること (30分程度)				鷲尾 純平		1	フッ化物について (講義)				授業時に配布するプリントおよび教科書を用いてよく復習すること (30分程度)				鷲尾 純平	
2	フッ化物について (実習) フッ素塗布法				実習内容について、プリントおよび教科書の該当ページを予習しておくこと (30分程度)				鷲尾 純平		2	フッ化物について (実習) フッ素塗布法				実習内容について、プリントおよび教科書の該当ページを予習しておくこと (30分程度)				鷲尾 純平	
3	シクルスケーラーマネキン実習 (エキスポローラー、プローピング、シクルスケーラー、歯面研磨)				教科書Ⅲ編3章P130～153スケーリング、Ⅴ編1章P324～325スケーリング実習について復習し実習に臨むこと (30分程度)				伊藤 恵美		3	フッ化物について (実習) フッ素塗布法 フッ素洗口法				同上				鷲尾 純平	
4	フッ化物について (実習) フッ素塗布法 フッ素洗口法				実習内容について、プリントおよび教科書の該当ページを予習しておくこと (30分程度)				鷲尾 純平		4	フッ化物について (実習) まとめ				授業時に配布するプリントおよび教科書を用いてよく復習すること (30分程度)				鷲尾 純平	
5	シクルスケーラー相互実習 患者一人目				教科書Ⅲ編3章P130～153スケーリング、Ⅴ編1章P324～325スケーリング実習について復習し実習に臨むこと (30分程度)				伊藤 恵美		5	シクルスケーラーマネキン実習 (エキスポローラー、プローピング、シクルスケーラー 歯面研磨)				教科書Ⅲ編3章P130～153スケーリング、Ⅴ編1章P324～325スケーリング実習について復習し実習に臨むこと (30分程度)				伊藤 恵美	
6	シクルスケーラー相互実習 患者二人目								伊藤 恵美		6	シクルスケーラー相互実習 患者一人目								伊藤 恵美	
7	シクルスケーラー相互実習 患者三人目								伊藤 恵美		7	シクルスケーラー相互実習 患者二人目								伊藤 恵美	
8	フッ化物について (実習) まとめ				授業時に配布するプリントおよび教科書を用いてよく復習すること (30分程度)				鷲尾 純平		8	シクルスケーラー相互実習 患者三人目				教科書Ⅲ編3章P171～172エアースケーラー、P181～183歯面清掃器について熟読し実習に臨むこと (30分程度)				伊藤 恵美	
9	シクルスケーラーシャープニング (講義・実習)				教科書P155～161 シャープニングについて熟読し授業に臨むこと (30分程度)				伊藤 恵美		9	シクルスケーラーシャープニング (講義・実習)								伊藤 恵美	
10	エアーフロー (講義)、エパチップ (講義)				教科書P171～172エアースケーラー、P178～181歯面清掃について熟読しておくこと (30分程度)				伊藤 恵美		10	エアーフロー (講義)、エパチップ (講義)								伊藤 恵美	
11	エアーフロー、エアースケーラー実習				教科書Ⅲ編3章P171～172エアースケーラー、P181～183歯面清掃器について熟読し実習に臨むこと (30分程度)				伊藤 恵美		11	エアーフロー、エアースケーラー実習				教科書Ⅲ編3章P171～172エアースケーラー、P181～183歯面清掃器について熟読し実習に臨むこと (30分程度)				伊藤 恵美	
12	エアーフロー、エアースケーラー実習				教科書Ⅲ編3章P161～171超音波スケーラーについて復習し実習に臨むこと (30分程度)				伊藤 恵美		12	エアーフロー、エアースケーラー実習				教科書Ⅲ編3章P161～171超音波スケーラーについて復習し実習に臨むこと (30分程度)				伊藤 恵美	
13	シクルスケーラー、超音波スケーラーまとめ (相互実習) 一人目								伊藤 恵美		13	シクルスケーラー、超音波スケーラーまとめ (相互実習) 一人目								伊藤 恵美	
14	シクルスケーラー、超音波スケーラーまとめ (相互実習) 二、三人目								伊藤 恵美		14	シクルスケーラー、超音波スケーラーまとめ (相互実習) 二、三人目								伊藤 恵美	
15	まとめ				授業時の配布プリント、及び教科書を用いて復習すること (45分程度)				伊藤 恵美		15	まとめ				授業時の配布プリント、及び教科書を用いて復習すること (45分程度)				伊藤 恵美	
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生士のための齶歯予防処置法」中垣晴男ほか著、医歯薬出版株式会社										最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」、全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版 歯科衛生士のための齶歯予防処置法、中垣晴男ほか 著、医歯薬出版										
参考文献	「最新歯科衛生士教本 歯周病学」全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版株式会社										「最新歯科衛生士教本 歯周病学」 「最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」										
備考	・授業の冒頭で目標を示し、授業の最後にまとめを行う。 ・実習レポートは添削し返却する。 ・授業の一部で確認テストを実施し添削後返却する。模範解答は授業内に提示する。										・授業の冒頭で目標を示し、授業の最後にまとめを行う。 ・実習レポートは添削し返却する。 ・授業の一部で確認テストを実施し添削後返却する。模範解答は授業内に提示する。										

新										旧																							
学習成果	1	2	3	4	5						試験(筆記)	80%	学習成果	1	2	3	4	5						試験(筆記)	80%								
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき				基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき										
科目名	歯科予防処置演習Ⅲ(臨床後期)					単位認定者	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき		評価の方法	試験(筆記)	80%	科目名	歯科予防処置演習Ⅲ(臨床後期)					単位認定者	伊藤 惠美 鷲尾 純平 眞柳 みゆき		試験(筆記)	試験(筆記)	80%										
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	受講態度		20%	対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	受講態度	20%		対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	受講態度	20%		
	授業時間数	30 時間	授業回数		15 回	授業形態	演習	授業回数		15 回		授業形態	演習	授業時間数		30 時間	授業回数	15 回	授業形態	演習			授業回数	15 回	授業形態		演習						
授業の概要	歯周病予防法の基礎知識を理解し、歯周組織の健康像と病的変化を把握する。その手技としての各検査法、スケーリング、PMTCの技術を相互実習を通して身につける。また、健康とQOLにかかわりのある口腔保健管理の理論と管理計画の実際を学ぶ。「歯科予防処置演習Ⅰ(基礎知識・基本技術)」及び「歯科予防処置演習Ⅱ(臨床前期)」で学んだ知識や技術を踏まえ、歯周病及び歯周病予防のための予防方法と計画立案の方法を習得する。さらに「歯科予防処置演習Ⅰ(基礎知識・基本技術)」及び「歯科予防処置演習Ⅱ(臨床前期)」で学んだ、う蝕に関する知識と歯周病予防に関する技術を基に、う蝕予防プログラムの実践ができるようにする。										歯周病予防法の基礎知識を理解し、歯周組織の健康像と病的変化を把握する。その手技としての各検査法、スケーリング、PMTCの技術を相互実習を通して身につける。また、健康とQOLにかかわりのある口腔保健管理の理論と管理計画の実際を学ぶ。「歯科予防処置演習Ⅰ(基礎知識・基本技術)」及び「歯科予防処置演習Ⅱ(臨床前期)」で学んだ知識や技術を踏まえ、歯周病及び歯周病予防のための予防方法と計画立案の方法を習得する。さらに「歯科予防処置演習Ⅰ(基礎知識・基本技術)」及び「歯科予防処置演習Ⅱ(臨床前期)」で学んだ、う蝕に関する知識と歯周病予防に関する技術を基に、う蝕予防プログラムの実践ができるようにする。																						
到達目標	①小窩裂溝充填法の目的と方法を理解し、模型上で実施できる。 ②糖類とう蝕の関連性を理解し、代用糖による齲蝕予防法を実践できる。 ③歯周病予防法の基礎知識を理解し、その手技を実践できる。										①小窩裂溝充填法の目的と方法を理解し、模型上で実施できる。 ②糖類とう蝕の関連性を理解し、代用糖による齲蝕予防法を実践できる。 ③歯周病予防法の基礎知識を理解し、その手技を実践できる。																						
学習者への期待等	①実習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。 ②提出物は、期日を守って提出すること。										①実習では身だしなみを整え、意欲的にのぞむこと。 ②提出物は、期日を守って提出すること。																						
回	授業計画					準備学習					担当	回	授業計画					準備学習					担当										
1	代用糖によるう蝕予防(講義)					授業時に配布するプリント、及び教科書を用いてよく復習すること(30分程度)					鷲尾 純平	1	代用糖によるう蝕予防(講義)					授業時に配布するプリント、及び教科書を用いてよく復習すること(30分程度)					鷲尾 純平										
2	シーラントについて(講義)					実習内容について、教科書・プリントなどを用いて予習しておくこと(30分程度)					眞柳 みゆき	2	シーラントについて(講義)					実習内容について、教科書・プリントなどを用いて予習しておくこと(30分程度)					眞柳 みゆき										
3	代用糖に関する実習(キシリトールの吸熱反応・味・酸産生力)(実習)					実習内容について、教科書・プリントなどを用いて予習しておくこと(30分程度)					鷲尾 純平	3	キュレットスケーラーについて(講義・顎模型上での実習)					教科書Ⅲ編3章P154~155キュレットスケーラーについて読んでおくこと(30分程度)					伊藤 惠美										
4	シーラント(小窩裂溝充填)(実習)					教科書Ⅲ編3章P154~155キュレットスケーラーについて読んでおくこと(30分程度)					眞柳 みゆき	4	シーラント(小窩裂溝充填)(実習)					教科書Ⅲ編3章P154~155キュレットスケーラーについて読んでおくこと(30分程度)					眞柳 みゆき										
5	キュレットスケーラーについて(講義・顎模型上での実習)					教科書Ⅲ編3章P154~155キュレットスケーラーについて読んでおくこと(30分程度)					伊藤 惠美	5	キュレットスケーラー操作(顎模型上での実習)キュレットスケーラー相互実習の術式説明、留意点					教科書Ⅲ編3章P154~155キュレットスケーラーについて読んでおくこと(30分程度)					伊藤 惠美										
6	キュレットスケーラー操作(顎模型上での実習)キュレットスケーラー相互実習の術式説明、留意点					教科書Ⅲ編3章P154~155キュレットスケーラーについて読んでおくこと(30分程度)					伊藤 惠美	6	代用糖に関する実習(キシリトールの吸熱反応・味・酸産生力)(実習)					実習内容について、教科書・プリントなどを用いて予習しておくこと(30分程度)					鷲尾 純平										
7	キュレットスケーラー相互実習 13~23、33~43 一人目、二人目					教科書Ⅲ編3章P142~153キュレットスケーラーの操作方法について熟読し実習に臨むこと(30分程度)					伊藤 惠美	7	キュレットスケーラー相互実習 13~23、33~43 一人目、二人目					教科書Ⅲ編3章P142~153キュレットスケーラーの操作方法について熟読し実習に臨むこと(30分程度)					伊藤 惠美										
8	キュレットスケーラー相互実習 13~23、33~43 三人目、34~38 一人目										伊藤 惠美	8	キュレットスケーラー相互実習 13~23、33~43 三人目、34~38 一人目										伊藤 惠美										
9	キュレットスケーラー相互実習 34~38 二、三人目										伊藤 惠美	9	キュレットスケーラー相互実習 34~38 二、三人目										伊藤 惠美										
10	キュレットスケーラー相互実習 44~48 一、二人目										伊藤 惠美	10	キュレットスケーラー相互実習 44~48 一、二人目										伊藤 惠美										
11	キュレットスケーラー相互実習 44~48 三人目、24~28 一人目										伊藤 惠美	11	キュレットスケーラー相互実習 44~48 三人目、24~28 一人目										伊藤 惠美										
12	キュレットスケーラー相互実習 24~28 二、三人目										伊藤 惠美	12	キュレットスケーラー相互実習 24~28 二、三人目										伊藤 惠美										
13	キュレットスケーラー相互実習 14~18 一、二人目										伊藤 惠美	13	キュレットスケーラー相互実習 14~18 一、二人目										伊藤 惠美										
14	キュレットスケーラー相互実習 14~18 三人目										伊藤 惠美	14	キュレットスケーラー相互実習 14~18 三人目										伊藤 惠美										
15	まとめ										授業時の配布プリント、及び教科書を用いてよく復習すること(45分程度)					伊藤 惠美	15						まとめ					授業時の配布プリント、及び教科書を用いてよく復習すること(45分程度)					伊藤 惠美
教科書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」、全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版 歯科衛生士のための齲蝕予防処置法、中垣晴男ほか 著、医歯薬出版										最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」、全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版 歯科衛生士のための齲蝕予防処置法、中垣晴男ほか 著、医歯薬出版																						
参考文献	「最新歯科衛生士教本 歯周病学」 「最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」										「最新歯科衛生士教本 歯周病学」 「最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」																						
備考	・授業の冒頭で目標を示し、授業の最後にまとめを行う。 ・実習レポートは添削し返却する。 ・授業の一部で確認テストを実施し添削後返却する。模範解答は授業内に提示する。										・授業の冒頭で目標を示し、授業の最後にまとめを行う。 ・実習レポートは添削し返却する。 ・授業の一部で確認テストを実施し添削後返却する。模範解答は授業内に提示する。																						

新

学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
		●	●	●						
科目名	保健指導演習Ⅰ(臨床基礎)				単位認定者	大宮 由布子	評価の方法	試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数		2 単位	受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業時間数		60 時間		
						授業回数	30 回			
授業の概要	社会制度、医療制度の変革と人々の生活環境を理解するとともに、歯・口腔の健康を維持・増進するために、予防の概念に基づいた、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識・技術・態度を習得する。地域歯科保健の概要を理解し、対象者の年齢や環境における個人及び集団にふさわしい口腔衛生指導、メンテナンス管理方法、指導案作成の知識、技術の習得、歯科衛生過程に基づいた問題発見、解決方法、評価について学ぶ。									
到達目標	・ 集団・個人など各対象者に合わせた口腔衛生指導や、メンテナンス管理方法の技術態度を習得する。 ・ 地域歯科保健活動における集団指導の展開方法を習得する。									
学修者への期待等	欠席せず、意欲を持って臨み、忘れ物などないように取り組んで欲しい。									
回	授業計画				準備学習					
1	Ⅴ編 2章地域歯科保健指導活動 1地域歯科保健活動における健康教育(健康教育の概要、進め方、方法)				教科書P329～読んでおくこと。(30分程度)					
2	Ⅴ編 2章地域歯科保健指導活動 2地域歯科保健活動の実践(小学校、保育園、幼稚園の指導案作成、教育媒体について)				教科書P329～読んでおくこと。 1年次に学習したライフステージの特徴を復習しておくこと。(30分程度)					
3	Ⅲ編 3章歯科衛生介入のための歯科保健指導 口腔清掃指導法について				1年次の復習(教科書P210～217、220、221、227)を復習しておくこと。(40分程度)					
4	Ⅲ編 3章歯科衛生介入のための歯科保健指導 口腔清掃用具(歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ、舌ブラシ)の使用法(演習)									
5	Ⅲ編 3章歯科衛生介入のための歯科保健指導 口腔清掃用具(音波ブラシ、歯磨剤、洗口剤)の使用法(演習)									
6	口腔衛生指導 対象者からの情報収集①(口腔観察、ブラーク指数PCR、TBI)1人～3人(演習)									
7	口腔衛生指導 対象者からの情報収集②(口腔観察、ブラーク指数PCR、TBI)1人～3人(演習)									
8	口腔衛生指導 対象者からの情報収集③(口腔観察、ブラーク指数PCR、TBI)1人～3人(演習)				教科書P102～105を復習しておくこと。(30分程度)					
9	口腔衛生指導 対象者からの情報収集(口腔観察、ブラーク指数PCR、OHI、P11まとめ)(講義)									
10	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例1 1人目(演習)				口腔清掃用具、口腔清掃方法を復習しておくこと。(30分程度)					
11	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例1 2人目、3人目(演習)									
12	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例1 まとめ(講義)									
13	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例2 1人目(演習)									
14	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例2 2人目、3人目(演習)									
15	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例2 まとめ(講義)									

旧

学習成果	1	2	3	4	5					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力					
		●	●	●						
科目名	保健指導演習Ⅰ(臨床基礎)				単位認定者	大宮 由布子	評価の方法	試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数		2 単位	受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業時間数		60 時間		
						授業回数	30 回			
授業の概要	社会制度、医療制度の変革と人々の生活環境を理解するとともに、歯・口腔の健康を維持・増進するために、予防の概念に基づいた、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識・技術・態度を習得する。地域歯科保健の概要を理解し、対象者の年齢や環境における個人及び集団にふさわしい口腔衛生指導、メンテナンス管理方法、指導案作成の知識、技術の習得、歯科衛生過程に基づいた問題発見、解決方法、評価について学ぶ。									
到達目標	・ 集団・個人など各対象者に合わせた口腔衛生指導や、メンテナンス管理方法の技術態度を習得する。 ・ 地域歯科保健活動における集団指導の展開方法を習得する。									
学修者への期待等	欠席せず、意欲を持って臨み、忘れ物などないように取り組んで欲しい。									
回	授業計画				準備学習			担当		
1	Ⅲ編 3章歯科衛生介入のための歯科保健指導 口腔清掃指導法について							大宮 由布子		
2	Ⅲ編 3章歯科衛生介入のための歯科保健指導 口腔清掃用具(歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ、舌ブラシ)の使用法(演習)				1年次の復習(教科書P210～217、220、221、227)を復習しておくこと。(40分程度)			大宮 由布子		
3	Ⅲ編 3章歯科衛生介入のための歯科保健指導 口腔清掃用具(音波ブラシ、歯磨剤、洗口剤)の使用法(演習)							大宮 由布子		
4	Ⅴ編 2章地域歯科保健指導活動 1地域歯科保健活動における健康教育(健康教育の概要、進め方、方法)				教科書P329～読んでおくこと。(30分程度)			大宮 由布子		
5	Ⅴ編 2章地域歯科保健指導活動 2地域歯科保健活動の実践(小学校、保育園、幼稚園の指導案作成、教育媒体について)				教科書P329～読んでおくこと。 1年次に学習したライフステージの特徴を復習しておくこと。(30分程度)			大宮 由布子		
6	口腔衛生指導 対象者からの情報収集(口腔観察、ブラーク指数PCR、TBI)1人目				教科書P102を復習しておくこと。(30分程度)			大宮 由布子		
7	口腔衛生指導 対象者からの情報収集(口腔観察、ブラーク指数PCR、TBI)2人目、3人目									
8	口腔衛生指導 対象者からの情報収集(口腔観察、ブラーク指数OHI、TBI)1人目				教科書P102、103を読んでおくこと。(30分程度)			大宮 由布子		
9	口腔衛生指導 対象者からの情報収集(口腔観察、ブラーク指数OHI、TBI)2人目、3人目									
10	口腔衛生指導 対象者からの情報収集(口腔観察、ブラーク指数P11、TBI)1人目				教科書P105を復習しておくこと。(30分程度)			大宮 由布子		
11	口腔衛生指導 対象者からの情報収集(口腔観察、ブラーク指数P11、TBI)2人目、3人目									
12	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例1 1人目				口腔清掃用具、口腔清掃方法を復習しておくこと。(30分程度)			大宮 由布子		
13	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例1 2人目、3人目									
14	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例2 1人目									
15	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例2 2人目、3人目									
	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例2 2人目、3人目									

シラバス新旧比較対照表(中央キャンパス 歯科衛生学科)

新

回	授業計画	準備学習
16	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 妊産婦	1年次のライフステージの特徴、口腔清掃用具の使用方法を復習しておくこと。(30分程度)
17	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 乳幼児	
18	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 学童	
19	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 青年期・成人期(歯周病)	
20	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 青年期・成人期(補綴物装着者・インプラント)	
21	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 老年期(義歯装着者)	
22	V編 2章地域歯科保健指導活動 2地域歯科保健活動の実践 高齢者保健施設における歯科保健指導	教科書P329～読んでおくこと。高齢者の特徴、生活機能評価を復習しておくこと。高齢者歯科教科書P110～118、P133～148を読んでおくこと。(30分程度)
23	在宅診療における訪問口腔衛生指導(対象者の把握他)	高齢者歯科教科書P110～118を読んでおくこと。(30分程度)
24	在宅診療における訪問口腔衛生指導(口腔ケア)	高齢者歯科教科書P110～118、113～146を読んでおくこと。(30分程度)
25	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例3 1人目	口腔清掃用具、口腔清掃方法を復習しておくこと。(30分程度)
26	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例3 2人目、3人目	
27	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例4 1人目	
28	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例4 2人目、3人目	
29	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例5 1人目	
30	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例5 2人目、3人目	
教科書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論、全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社	
参考文献	「最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 高齢者歯科」全国歯科衛生士教育協議会編集、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション」公益社団法人日本歯科衛生士会監修、医歯薬出版株式会社	
備考	演習課題の添削後、返却し授業内で総括する。 実習記録は添削後、知識、技術で課題となる点を授業内で総括する。	

旧

回	授業計画	準備学習	担当
16	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 妊産婦	1年次のライフステージの特徴、口腔清掃用具の使用方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
17	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 乳幼児	1年次のライフステージの特徴、口腔清掃用具の使用方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
18	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 学童	1年次のライフステージの特徴、口腔清掃用具の使用方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
19	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 青年期・成人期(歯周病)	1年次のライフステージの特徴、口腔清掃用具の使用方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
20	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 青年期・成人期(補綴物装着者・インプラント)	1年次のライフステージの特徴、口腔清掃用具の使用方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
21	症例検討 対象者別 口腔衛生指導 老年期(義歯装着者)	1年次のライフステージの特徴、口腔清掃用具の使用方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
22	V編 2章地域歯科保健指導活動 2地域歯科保健活動の実践 高齢者保健施設における歯科保健指導	教科書P329～読んでおくこと。高齢者の特徴、生活機能評価を復習しておくこと。高齢者歯科教科書P110～118、P133～148を読んでおくこと。(30分程度)	大宮 由布子
23	在宅診療における訪問口腔衛生指導(対象者の把握他)	高齢者歯科教科書P110～118を読んでおくこと。(30分程度)	大宮 由布子
24	在宅診療における訪問口腔衛生指導(口腔ケア)	高齢者歯科教科書P110～118、113～146を読んでおくこと。(30分程度)	大宮 由布子
25	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例3 1人目	口腔清掃用具、口腔清掃方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
26	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例3 2人目、3人目	口腔清掃用具、口腔清掃方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
27	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例4 1人目	口腔清掃用具、口腔清掃方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
28	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例4 2人目、3人目	口腔清掃用具、口腔清掃方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
29	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例5 1人目	口腔清掃用具、口腔清掃方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
30	口腔衛生指導(歯科衛生過程演習含む)メンテナンス管理 症例5 2人目、3人目	口腔清掃用具、口腔清掃方法を復習しておくこと。(30分程度)	大宮 由布子
教科書	最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論、全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版		
参考文献	最新 歯科衛生士教本 保健生態学 全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版、新歯科衛生士教本 歯科予防処置 第2版、全国歯科衛生士教育協議会 編集、医歯薬出版最新歯科衛生士教本 高齢者歯科第2版 歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション		
備考	演習課題の添削後、返却し授業内で総括する。 実習記録は添削後、知識、技術で課題となる点を授業内で総括する。		

新											旧														
学習成果	1	2	3	4	5						試験(筆記)	70 %	学習成果	1	2	3	4	5						試験(筆記)	70 %
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	単位認定者	佐藤 奈央子 中川 大介	評価の方法	受講態度	30 %				基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	単位認定者	佐藤 奈央子 中川 大介	評価の方法	受講態度	30 %		
科目名	口腔リハビリテーション論					単位認定者	佐藤 奈央子 中川 大介		評価の方法	試験(筆記)	70 %	科目名	口腔リハビリテーション論					単位認定者	佐藤 奈央子 中川 大介		評価の方法	試験(筆記)	70 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	授業時間数		30 時間	授業回数	15 回	対象学科	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
	授業形態	講義	授業形態		講義	授業回数	15 回			授業形態		講義	授業回数	15 回											
授業の概要	摂食・嚥下のしくみとそれにかかわる障害についての歯科衛生士の役割を理解する。口腔の問題・障害を克服する口腔リハビリテーションについて学ぶ。										授業の概要	摂食・嚥下のしくみとそれにかかわる障害についての歯科衛生士の役割を理解する。口腔の問題・障害を克服する口腔リハビリテーションについて学ぶ。													
到達目標	・摂食・嚥下の正常なしくみと生理について理解し、リハビリテーションにつながる評価について説明できる。 ・摂食・嚥下のトレーニングについて、その意味と適応を知る。										到達目標	・摂食・嚥下の正常なしくみと生理について理解し、リハビリテーションにつながる評価について説明できる。 ・摂食・嚥下のトレーニングについて、その意味と適応を知る。													
学修者への期待等	ただ単に聴講するだけでなく、取り組むべき課題を自分自身で見つけ、検討するという姿勢で授業に挑むこと。										学修者への期待等	ただ単に聴講するだけでなく、取り組むべき課題を自分自身で見つけ、検討するという姿勢で授業に挑むこと。													
回	授業計画					準備学習					担当	回	授業計画					準備学習					担当		
1	摂食・嚥下リハビリテーション概要					教科書1章を読んでおくこと(30分程度)					佐藤奈央子	1	[]										佐藤 奈央子		
2	摂食嚥下に関わる諸器官の解剖1					教科書1章を読んでおくこと(30分程度)					中川 大介	2	[]										佐藤 奈央子		
3	摂食・嚥下障害と歯科との関わり1					教科書2章を読んでおくこと(30分程度)					佐藤奈央子	3	[]					詳細は授業開始までにお知らせいたします。					佐藤 奈央子		
4	摂食嚥下に関わる諸器官の解剖2					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介	4	[]										佐藤 奈央子		
5	摂食・嚥下障害と歯科との関わり2					教科書5章を読んでおくこと(30分程度)					佐藤奈央子	5	[]										佐藤 奈央子		
6	摂食嚥下の段階(5期モデル、プロセスモデル等)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介	6	摂食嚥下に関わる諸器官の解剖1					教科書1章を読んでおくこと(30分程度)					中川 大介		
7	摂食・嚥下障害と歯科との関わり3					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					佐藤奈央子	7	摂食嚥下に関わる諸器官の解剖2					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介		
8	動画で見る摂食・嚥下リハビリテーション					あらかじめ付属DVDを見ておくこと。(40分程度)					佐藤奈央子	8	摂食嚥下の段階(5期モデル、プロセスモデル等)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介		
9	摂食嚥下障害の評価1(現病歴と現況の把握 情報収集)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介	9	摂食嚥下障害の評価1(現病歴と現況の把握 情報収集)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介		
10	摂食嚥下障害の評価2(身体所見と摂食場面の観察ポイントとその注意点、留意点)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介	10	摂食嚥下障害の評価2(身体所見と摂食場面の観察ポイントとその注意点、留意点)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介		
11	摂食嚥下障害の評価3(各種スクリーニング検査 R S T M W S T等)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介	11	摂食嚥下障害の評価3(各種スクリーニング検査 R S T M W S T等)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介		
12	摂食嚥下障害の評価4(嚥下造影検査 嚥下内視鏡検査)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介	12	摂食嚥下障害の評価4(嚥下造影検査 嚥下内視鏡検査)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介		
13	摂食嚥下障害の訓練1(摂食嚥下訓練を進めるにあたっての考え方)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介	13	摂食嚥下障害の訓練1(摂食嚥下訓練を進めるにあたっての考え方)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介		
14	摂食嚥下障害の訓練2(間接訓練の解説、その適応と効果 注意点)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介	14	摂食嚥下障害の訓練2(間接訓練の解説、その適応と効果 注意点)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介		
15	摂食嚥下障害の訓練3(直接訓練の解説、その適応と効果、注意点)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介	15	摂食嚥下障害の訓練3(直接訓練の解説、その適応と効果、注意点)					前回の授業内容を復習しておくこと(30分程度)					中川 大介		
教科書	「動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション」藤島一郎・柴本勇監修、中山書店										教科書	動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション、藤島 一郎 著、中山書店													
参考文献	「口から食べる嚥下障害Q&A」藤島一郎著、中央法規出版株式会社										参考文献	口から食べる-嚥下障害Q&A、藤島 一郎 著、中央法規出版													
備考											備考														

シラバス新旧比較対照表(中央キャンパス 歯科衛生学科)

新									
学習成果	1	2	3	4	5				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力				
	●	●	●	●	●				
科目名	臨地実習Ⅱ (臨床応用)				単位数	小野寺健、阿部真子、伊藤悠美、大宮由希子、三浦悦子、花岡静、高橋久美子		実習状況	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	集中	単位数	8 単位	評価の方法	
							授業時間数		360 時間
				授業形態	実習	授業回数			- 回
授業の概要	2年次に開講する本科目では、1年次で習得した学習内容を応用し、より高度で実践的な知識・技術を学ぶとともに、地域社会での歯科衛生士の有り様を現場で学ぶ。そのために、歯科診療所や大学病院での臨床実習に加え、保育園、幼稚園、小学校、要介護高齢者施設での臨地実習も行う。医療機関での臨床実習では、より高度な知識・技術を習得する他、大学病院と地域歯科医療機関との連携関係を理解し、自らの歯科保健業務に活かすことについて学ぶ。各ライフステージに合わせた歯科保健指導を行うことができる技術を身につける。								
学修者への期待等	1) 臨床現場における歯科衛生士の業務を実践することで自分の歯科衛生士像を具体的にイメージしてほしい。 2) 学内で学んだ知識、技術を具体的かつ実践的に実施してほしい。								
授業計画					準備学習				
<p>①実習期間：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 東北大学病院歯科部門実習：11～2月（14日間） 2) 歯科診療所臨床実習：7月～8月（13日間）、11～2月（18日間） 3) 保育園実習、幼稚園実習：春～秋 4) 小学校実習：春 5) 社会福祉施設実習：7～2月 <p>②実習の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 東北大学病院歯科部門実習： <ol style="list-style-type: none"> (1) 東北大学病院歯科部門における歯科医療を把握し、診療の流れを学び、保健医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を理解する。 (2) 学校内で学んだ知識・技術・態度を具体的に理解し、実行できる能力を身につける。 (3) 自己を客観的に評価し、社会人および専門職としての自覚と責任を持ち、自ら考えて向上することのできる能力を身につける。 2) 歯科診療所臨床実習： <ol style="list-style-type: none"> (1) 歯科医院の流れを把握し、保健医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を理解する。 (2) 身だしなみに留意し、学校内で学んだ知識、技術を実習により確認する。 (3) 習得した学習内容を応用し、実践的な知識、技術などを体得する。 3) 保育園実習、幼稚園実習： <ol style="list-style-type: none"> (1) 幼稚園児、保育園児の保育活動に参加するとともに、園児の発達段階および日常生活行動について理解し、口腔の管理を行なうために必要な、知識・技能・および態度を身につける。 (2) 定期的な歯科保健指導を行なうことにより口腔疾患のない保育環境を援助できる技術を身につける。 (3) 保護者および他職種との連携を図る能力を身につける。 4) 小学校実習： <ol style="list-style-type: none"> (1) 歯科臨床の現場においてライフステージに合わせた業務を円滑に行う能力を養う。 (2) 歯科保健指導を行う事により口腔疾患のない生活環境を援助出来る技術を習得する。 (3) 児童と円滑なコミュニケーションを取る能力を養う。 (4) 他職種との連携を図る能力を養う。 5) 社会福祉施設実習： <ol style="list-style-type: none"> (1) 要介護高齢者の口腔ケアの重要性が理解できる。 (2) 要介護高齢者の口腔ケアにおける歯科衛生士の役割が理解できる。 (3) 要介護高齢者の専門的口腔ケアにおける他職種との連携、コミュニケーションの重要性を理解できる。 									

旧									
学習成果	1	2	3	4	5				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力				
	●	●	●	●	●				
科目名	臨地実習Ⅱ (臨床応用)				単位数	小野寺健、阿部真子、伊藤悠美、大宮由希子、三浦悦子、花岡静、高橋久美子		実習状況	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	2年	開講時期	集中	単位数	8 単位	評価の方法	
							授業時間数		360 時間
				授業形態	実習	授業回数			- 回
授業の概要	2年次に開講する本科目では、1年次で習得した学習内容を応用し、より高度で実践的な知識・技術を学ぶとともに、地域社会での歯科衛生士の有り様を現場で学ぶ。そのために、歯科診療所や大学病院での臨床実習に加え、保育園、幼稚園、小学校、要介護高齢者施設での臨地実習も行う。医療機関での臨床実習では、より高度な知識・技術を習得する他、大学病院と地域歯科医療機関との連携関係を理解し、自らの歯科保健業務に活かすことについて学ぶ。各ライフステージに合わせた歯科保健指導を行うことができる技術を身につける。								
学修者への期待等	1) 臨床現場における歯科衛生士の業務を実践することで自分の歯科衛生士像を具体的にイメージしてほしい。 2) 学内で学んだ知識、技術を具体的かつ実践的に実施してほしい。								
授業計画					準備学習				
<p>①実習期間：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 東北大学病院歯科部門実習：11～2月（12日間） 2) 歯科診療所臨床実習：7月～8月（13日間）、11～2月（18日間） 3) 保育園実習、幼稚園実習：春～秋 4) 小学校実習：春 5) 社会福祉施設実習：7～2月 <p>②実習の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 東北大学病院歯科部門実習： <ol style="list-style-type: none"> (1) 東北大学病院歯科部門における歯科医療を把握し、診療の流れを学び、保健医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を理解する。 (2) 学校内で学んだ知識・技術・態度を具体的に理解し、実行できる能力を身につける。 (3) 自己を客観的に評価し、社会人および専門職としての自覚と責任を持ち、自ら考えて向上することのできる能力を身につける。 2) 歯科診療所臨床実習： <ol style="list-style-type: none"> (1) 歯科医院の流れを把握し、保健医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を理解する。 (2) 身だしなみに留意し、学校内で学んだ知識、技術を実習により確認する。 (3) 習得した学習内容を応用し、実践的な知識、技術などを体得する。 3) 保育園実習、幼稚園実習： <ol style="list-style-type: none"> (1) 幼稚園児、保育園児の保育活動に参加するとともに、園児の発達段階および日常生活行動について理解し、口腔の管理を行なうために必要な、知識・技能・および態度を身につける。 (2) 定期的な歯科保健指導を行なうことにより口腔疾患のない保育環境を援助できる技術を身につける。 (3) 保護者および他職種との連携を図る能力を身につける。 4) 小学校実習： <ol style="list-style-type: none"> (1) 歯科臨床の現場においてライフステージに合わせた業務を円滑に行う能力を養う。 (2) 歯科保健指導を行う事により口腔疾患のない生活環境を援助出来る技術を習得する。 (3) 児童と円滑なコミュニケーションを取る能力を養う。 (4) 他職種との連携を図る能力を養う。 5) 社会福祉施設実習： <ol style="list-style-type: none"> (1) 要介護高齢者の口腔ケアの重要性が理解できる。 (2) 要介護高齢者の口腔ケアにおける歯科衛生士の役割が理解できる。 (3) 要介護高齢者の専門的口腔ケアにおける他職種との連携、コミュニケーションの重要性を理解できる。 									

シラバス新旧比較対照表(中央キャンパス 歯科衛生学科)

新

学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●									
科目名	臨床医学					単位数	桑田恵美子 鈴木祐子 菊地明子 田林 暁一 渡邊 弘人 柿沼 誉 林 典夫		試験(筆記・レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	10 %	
							授業時間数		30 時間	受講態度	20 %
					授業形態				講義	授業回数	15 回
授業の概要	近年、「歯・口腔の健康」と「全身の健康」との関係が明らかになってきている。歯科衛生士として必要な基本的な臨床医学の知識と主要な疾患の概要を理解する。										
到達目標	日常で比較的目的にすることの多い一般的な皮膚疾患について理解する。看護学の基本的概念「人間」「環境」「健康」「看護」について理解し、一人ひとりに寄り添った対応ができる能力を養う。										
学修者への期待等	多様な価値観と様々なライフステージの対象を理解するため、「人間」「環境」「健康」について知識を身につけ、人々の健康保持・増進に向けて歯科衛生士としての役割を考えてほしい。皮膚そのものや一般的な皮膚疾患についての「正しい」知識を得ることにより、将来に役立てて頂きたいと思います。										
回	授業計画			準備学習			担当				
1	看護学の基本的概念「人間」「環境」「健康」						桑田 恵美子				
2	看護とは何か その看護の役割 機能			【事後課題】人間・健康に関するレポート課題を出します。(概ね3時間)			桑田 恵美子				
3	女性の体の基礎解剖・性ホルモンなどの理解			教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。(概ね30分)			菊地 明子				
4	妊娠・出産・産褥の理解			教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。(概ね30分)			菊地 明子				
5	代謝性疾患-先天性代謝異常症、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、痛風など、内分泌疾患-視床下部・下垂体系、副腎疾患、甲状腺疾患など			教科書「医学概論」6章の5節 代謝・内分泌疾患に目を通しておく。			林 典夫				
6	子どもの成長発達理解						鈴木 祐子				
7	基本的な聴覚系・前庭系の生理解剖を学ぶ			聴覚器の構造を把握しておく(概ね20分)			渡邊 弘人				
8	聴覚系・前庭系の疾患、治療、対応を学ぶ			自分が耳鼻咽喉科疾患になった時の症状を思い出す			渡邊 弘人				
9	老化と加齢変化、精神・神経障害、認知症、脳血管障害、パーキンソン病など			教科書「医学概論」6章の8節 神経・筋疾患、9節 精神疾患に目を通しておく。			林 典夫				
10	子どもの食行動の発達理解、子どもの健康教育・指導に必要な基礎知識						鈴木 祐子				
11	アレルギー性皮膚疾患を中心に			事前に配布される医学概論の「皮膚疾患」の項に目を通してきて下さい			柿沼 誉				
12	皮膚感染症、皮膚腫瘍を中心に			事前に配布される医学概論の「皮膚疾患」の項に目を通してきて下さい			柿沼 誉				
13	感染症-病原体、感染経路、感染症法、ジフテリア、百日咳、破傷風、消化器感染症、麻疹、水痘、風疹、帯状疱疹、性感染症、世界三大感染症、食中毒など			教科書「医学概論」6章の12節 感染症に目を通しておく。			林 典夫				
14	呼吸器疾患-インフルエンザ、肺炎、肺結核、COPD、気管支喘息、肺がんなどについて理解する。			教科書の関連部分に目を通してくること(概ね20分)			田林 暁一				
15	心不全の治療-薬物治療から移植医療まで			教科書の関連部分に目を通してくること(概ね20分)			田林 暁一				
教科書	「歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック」橋本賢二・増本一真編著、医歯薬出版株式会社他に適宜プリントを配布する。										
参考文献											
備考	【事後課題】人間・健康に関するレポート課題は、提出後にコメントを加えて返却します。										

旧

学習成果	1	2	3	4	5						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力						
	●	●									
科目名	臨床医学					単位数	桑田恵美子 鈴木祐子 菊地明子 田林 暁一 渡邊 弘人 柿沼 誉 林 典夫		試験(筆記・レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	10 %	
							授業時間数		30 時間	受講態度	20 %
					授業形態				講義	授業回数	15 回
授業の概要	近年、「歯・口腔の健康」と「全身の健康」との関係が明らかになってきている。歯科衛生士として必要な基本的な臨床医学の知識と主要な疾患の概要を理解する。										
到達目標	日常で比較的目的にすることの多い一般的な皮膚疾患について理解する。看護学の基本的概念「人間」「環境」「健康」「看護」について理解し、一人ひとりに寄り添った対応ができる能力を養う。										
学修者への期待等	多様な価値観と様々なライフステージの対象を理解するため、「人間」「環境」「健康」について知識を身につけ、人々の健康保持・増進に向けて歯科衛生士としての役割を考えてほしい。皮膚そのものや一般的な皮膚疾患についての「正しい」知識を得ることにより、将来に役立てて頂きたいと思います。										
回	授業計画			準備学習			担当				
1	看護学の基本的概念「人間」「環境」「健康」						桑田 恵美子				
2	看護とは何か その看護の役割 機能			【事後課題】人間・健康に関するレポート課題を出します。(概ね3時間)			桑田 恵美子				
3	女性の体の基礎解剖・性ホルモンなどの理解			教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。(概ね30分)			菊地 明子				
4	妊娠・出産・産褥の理解			教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。(概ね30分)			菊地 明子				
5	女性の体の基礎解剖・性ホルモンなどの理解			教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。(概ね30分)			菊地 明子				
6	妊娠・出産・産褥の理解			教科書P140～148産科・婦人科疾患・妊娠の内容について予習しておくこと。(概ね30分)			菊地 明子				
7	呼吸器疾患-インフルエンザ、肺炎、肺結核、COPD、気管支喘息、肺がんなどについて理解する。			教科書の関連部分に目を通してくること(概ね20分)			田林 暁一				
8	心不全の治療-薬物治療から移植医療まで			教科書の関連部分に目を通してくること(概ね20分)			田林 暁一				
9	基本的な聴覚系・前庭系の生理解剖を学ぶ			聴覚器の構造を把握しておく(概ね20分)			渡邊 弘人				
10	聴覚系・前庭系の疾患、治療、対応を学ぶ			自分が耳鼻咽喉科疾患になった時の症状を思い出す			渡邊 弘人				
11	アレルギー性皮膚疾患を中心に			事前に配布される医学概論の「皮膚疾患」の項に目を通してきて下さい			柿沼 誉				
12	皮膚感染症、皮膚腫瘍を中心に			事前に配布される医学概論の「皮膚疾患」の項に目を通してきて下さい			柿沼 誉				
13	代謝性疾患-先天性代謝異常症、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症、痛風など、内分泌疾患-視床下部・下垂体系、副腎疾患、甲状腺疾患など			教科書「医学概論」6章の5節 代謝・内分泌疾患に目を通しておく。			林 典夫				
14	感染症-病原体、感染経路、感染症法、ジフテリア、百日咳、破傷風、消化器感染症、麻疹、水痘、風疹、帯状疱疹、性感染症、世界三大感染症、食中毒など			教科書「医学概論」6章の12節 感染症に目を通しておく。			林 典夫				
15	老化と加齢変化、精神・神経障害、認知症、脳血管障害、パーキンソン病など			教科書「医学概論」6章の8節 神経・筋疾患、9節 精神疾患に目を通しておく。			林 典夫				
教科書	歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック(デンタルハイジーン別冊)(医歯薬出版)、他に適宜プリントを配布する。										
参考文献											
備考	【事後課題】人間・健康に関するレポート課題は、提出後にコメントを加えて返却します。										

シラバス新旧比較対照表(中央キャンパス 歯科衛生学科)

新										旧																			
学習成果	1	2	3	4	5						科目名	保健指導演習Ⅱ(臨床応用)					単位認定者	大宮 由布子					試験(筆記)	80 %					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	●	●	●	●	●		科目名	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期		前期	単位数	1 単位	授業時間数	30 時間			授業回数	15 回	評価の方法	授業内課題	10 %
対象学科 必修・選択 配当年次											対象学科 必修・選択 配当年次	歯科衛生学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回	評価の方法	授業内課題	10 %	レポート等	10 %	受講態度	10 %
授業の概要	歯科衛生介入のための歯科保健指導の展開(フッ化物応用、う蝕活動性試験の実施、各口腔清掃方法指導、口腔清掃用品選択)を実施するための技術及び態度を習得する。対象者の年齢や環境における個人及び集団にふさわしい口腔衛生指導、メンテナンス管理方法を専門的な立場から援助できる能力や、問題発見、解決方法、評価について学ぶ。										歯科衛生介入のための歯科保健指導の展開(フッ化物応用、う蝕活動性試験の実施、各口腔清掃方法指導、口腔清掃用品選択)を実施するための技術及び態度を習得する。対象者の年齢や環境における個人及び集団にふさわしい口腔衛生指導、メンテナンス管理方法を専門的な立場から援助できる能力や、問題発見、解決方法、評価について学ぶ。																		
到達目標	①対象者の把握および口腔清掃指導技術を習得する。 ②各症例における問題発見、解決方法を選択できる能力を習得する。 ③歯科衛生士が関与する地域保健活動について理解し実践できる能力を習得する。										①対象者の把握および口腔清掃指導技術を習得する。 ②各症例における問題発見、解決方法を選択できる能力を習得する。 ③歯科衛生士が関与する地域保健活動について理解し実践できる能力を習得する。																		
学修者への期待等	欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかり行い受講して欲しい。										欠席せずに意欲を持って臨み、予習・復習をしっかり行い受講して欲しい。																		
回	授業計画					準備学習					回	授業計画					準備学習												
1	禁煙支援について										1	禁煙支援について																	
2	対象者別メンテナンス 症例検討(禁煙支援症例)					教科書P 2 3 3～2 3 4を読んでおくこと。 P 3 3～の行動変容について復習しておくこと。 (3 0分程度)					2	対象者別メンテナンス 症例検討(禁煙支援症例)					教科書P 2 3 3～2 3 4を読んでおくこと。 P 3 3～の行動変容について復習しておくこと。 (3 0分程度)												
3	歯科衛生士が関与する介護予防(対象者の把握、口腔機能評価、口腔衛生管理方法)					高齢者歯科P 2 1 7～2 1 9を復習しておくこと。 (3 0分程度)					3	歯科衛生士が関与する介護予防(対象者の把握、口腔機能評価、口腔衛生管理方法)					高齢者歯科P 2 1 7～2 1 9を復習しておくこと。 (3 0分程度)												
4	歯科衛生士が関与する介護予防口腔機能向上プログラムの作成					高齢者歯科P 2 1 7～2 1 9を復習しておくこと。 (3 0分程度)					4	歯科衛生士が関与する介護予防口腔機能向上プログラムの作成					高齢者歯科P 2 1 7～2 1 9を復習しておくこと。 (3 0分程度)												
5	対象者別口腔衛生指導メンテナンス① 1人目					教科書P 1 0 2～各ブランク指数を読んでおくこと。 口腔清掃用具の選択、口腔清掃方法を復習しておくこと。(3 0分程度)					5	対象者別口腔衛生指導メンテナンス① 1人目					教科書P 1 0 2～各ブランク指数を読んでおくこと。 口腔清掃用具の選択、口腔清掃方法を復習しておくこと。(3 0分程度)												
6	対象者別口腔衛生指導メンテナンス① 2人目、3人目																												
7	対象者別口腔衛生指導メンテナンス② 1人目																												
8	対象者別口腔衛生指導メンテナンス② 2人目、3人目																												
9	地域保健活動(口腔保健センター) 1歳6ヶ月、2歳6か月、3歳、妊産婦の保健指導					ライフステージの特徴、各時期の清掃方法等を復習しておくこと。(3 0分程度)					9	地域保健活動(口腔保健センター) 1歳6ヶ月、2歳6か月、3歳、妊産婦の保健指導					ライフステージの特徴、各時期の清掃方法等を復習しておくこと。(3 0分程度)												
10	対象者別口腔衛生指導メンテナンス③ 1人目					教科書P 1 0 2～各ブランク指数を読んでおくこと。 口腔清掃用具の選択、口腔清掃方法を復習しておくこと。(3 0分程度)					10	対象者別口腔衛生指導メンテナンス③ 1人目					教科書P 1 0 2～各ブランク指数を読んでおくこと。 口腔清掃用具の選択、口腔清掃方法を復習しておくこと。(3 0分程度)												
11	対象者別口腔衛生指導メンテナンス③ 2人目、3人目					教科書P 1 0 2～各ブランク指数を読んでおくこと。 口腔清掃用具の選択、口腔清掃方法を復習しておくこと。(3 0分程度)					11	対象者別口腔衛生指導メンテナンス③ 2人目、3人目					教科書P 1 0 2～各ブランク指数を読んでおくこと。 口腔清掃用具の選択、口腔清掃方法を復習しておくこと。(3 0分程度)												
12	小集団指導(対象者別テーマの選択、指導案作成、指導)					教科書P 2 3 3～2 3 4を読んでおくこと。 P 3 3～の行動変容について復習しておくこと。 (3 0分程度) 指導案作成および資料作成					12	小集団指導(対象者別テーマの選択、指導案作成、指導)					教科書P 2 3 3～2 3 4を読んでおくこと。 P 3 3～の行動変容について復習しておくこと。 (3 0分程度) 指導案作成および資料作成												
13	小集団指導(対象者別テーマの選択、指導案作成、指導)																												
14	小集団指導(対象者別テーマの選択、指導案作成、指導)																												
15	まとめ										15	まとめ																	
教科書	「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 高齢者歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 障害者歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社										「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」「最新歯科衛生士教本 高齢者歯科」 「最新歯科衛生士教本 障害者歯科」																		
参考文献	「最新歯科衛生士教本 口腔保健管理」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 歯周疾患 歯周治療」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版株式会社 「健康寿命の延伸をめざした 口腔機能への気づきと支援 ライフステージごとの機能を守り育てる」(公財)ライオン歯科衛生研究所編、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」佐藤陽子・齋藤淳編著、医歯薬出版株式会社 「よくわかる歯科衛生過程」全国歯科衛生士教育協議会ほか編、医歯薬出版株式会社 「歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック」尾崎哲則・埴岡隆編著、医歯薬出版株式会社										「最新歯科衛生士教本 口腔保健管理」「最新歯科衛生士教本 保健生態学」 「最新歯科衛生士教本 歯周疾患 歯周治療」「最新歯科衛生士教本 高齢者歯科」「最新歯科衛生士教本 障害者歯科」 「最新歯科衛生士教本 歯科保健指導論」「口腔機能への気づきと支援」「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」「よくわかる歯科衛生過程」「歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック」																		
備考	演習課題の添削後、返却し授業内で総括する。 実習記録は添削後、知識、技術で課題となる点を授業内で総括する。										演習課題の添削後、返却し授業内で総括する。 実習記録は添削後、知識、技術で課題となる点を授業内で総括する。																		